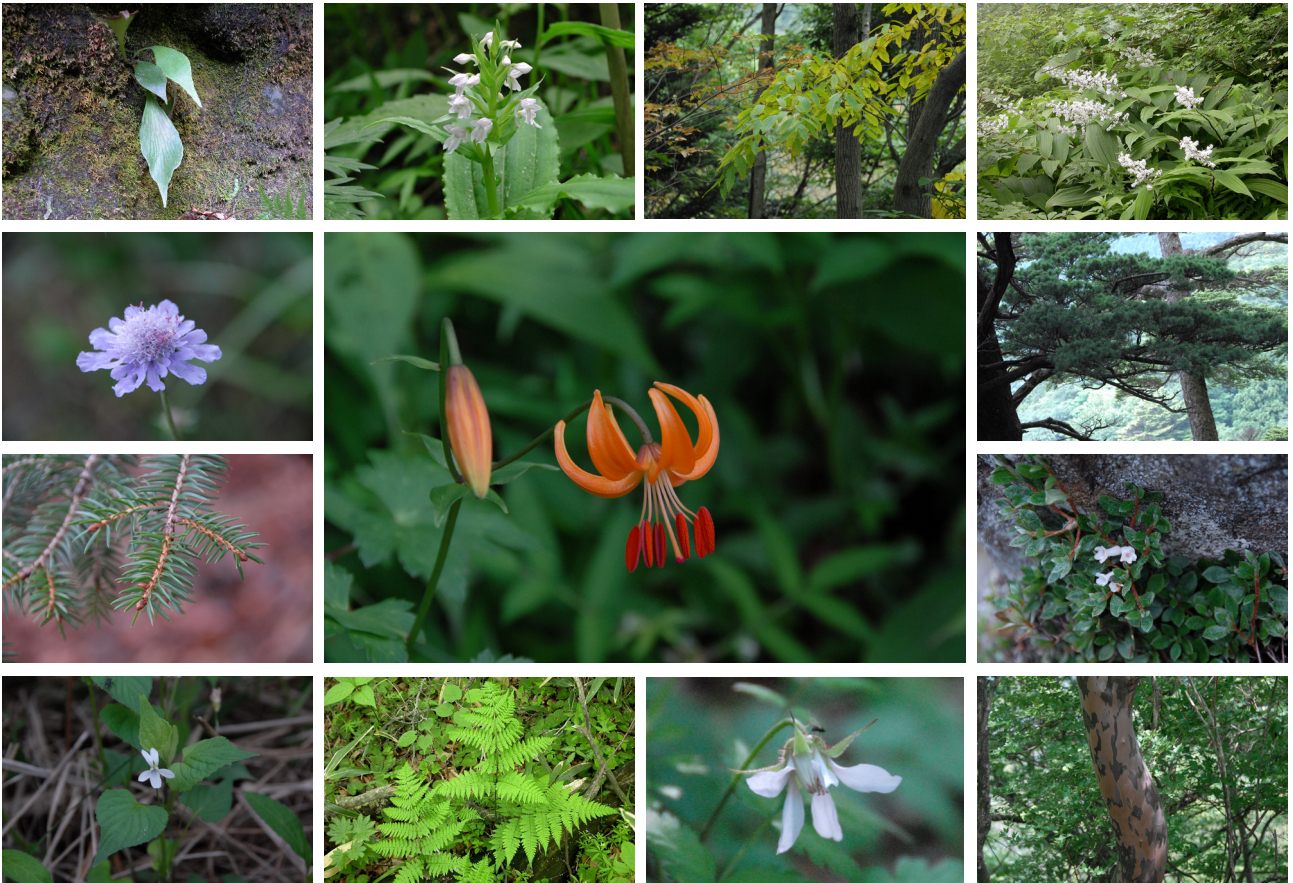

丹沢の希少植物図鑑

—希少植物の保護に向けて—



目次

頁

はじめに -----	1
丹沢の希少植物とその保全 -----	2
丹沢の希少植物写真集 -----	7

() 内は写真掲載頁

小葉植物門

ヒカゲノカズラ綱

ヒカゲノカズラ目 ヒカゲノカズラ科 スギラン (8)

イワヒバ目 イワヒバ科 エゾノヒメクラマゴケ (8)

真葉植物門

(シダ類)

マツバラ綱

ハナヤスリ目 ハナヤスリ科 ウスイハナワラビ (8)

ウラボシ綱 (シダ綱)

ゼンマイ目 ゼンマイ科 ヤマドリゼンマイ (9)

コケシノブ目 コケシノブ科 ヒメコケシノブ (9)、コケシノブ (9)

ヘゴ目 キジノオシダ科 キジノオシダ (10)

ウラボシ目 イノモトソウ科 タキミシダ (10)、ヒメウラジロ (10)

チャセンシダ科 ヒメイワトラノオ (11)、チャセンシダ (11)、
イヌチャセンシダ (11)

イワデンダ科 タニイヌワラビ (12)、タカネサトメシダ (12)、
イッポンワラビ (12)、ウスゲミヤマシケシダ (13)、
ウスゲミヤマシケシダ×ハクモウイノデ (13)、
ニセコクモウクジャク (13)

ヒメシダ科 アイハリガネワラビ (14)

オシダ科 ミドリカナワラビ (14)、ナガサキシダ (14)、
ホソイノデ (15)、ヤシャイノデ (15)、オニイノデ (15)

ウラボシ科 カラクサシダ (16)、オオクボシダ (16)

(裸子植物)

マツ綱

マツ目 マツ科 ハリモミ (16)、ゴヨウマツ (17)、コメツガ (17)

ヒノキ科 アスナロ (17)

(被子植物)

モクレン綱

[原始的双子葉類]

コショウ目 ウマノスズクサ科 ズソウカンアオイ (18)、ウスバサイシン (18)

[単子葉類]

ユリ目 シュロソウ科 クルマバツクバネソウ (18)

ユリ科 カタクリ (19)、クルマユリ (19)、サガミジョウロウホトトギス (19)

キジカクシ目 ラン科 エビネ (20)、コアツモリソウ (20)、クマガイソウ (20)、
ハコネラン (21)、ベニシュスラン (21)、ノビネチドリ (21)、
スズムシソウ (22)、アオフタバラン (22)、
タンザワサカネラン (22)、サカネラン (23)、オノエラン (23)、

カモメラン (23)、コケイラン (24)、オオヤマサギソウ (24)、
ウチョウラン (24)、カヤラン (25)、ヒトツボクロ (25)、
キバナノショウキラン (25)

キジカクシ科 キジカクシ (26)、ハルナユキザサ (26)

[真正双子葉類]

キンポウゲ目 メギ科 ルイヨウボタン (26)

キンポウゲ科 レンゲショウマ (27)、モミジカラマツ (27)

ケシ科 ヤマブキソウ (27)

ビャクダン目 ツチトリモチ科 ミヤマツチトリモチ (28)

ユキノシタ目 ボタン科 ヤマシャクヤク (28)、ベニバナヤマシャクヤク (28)

スグリ科 ヤシャビシャク (29)、ヤブサンザシ (29)、ザリコミ (29)

ベンケイソウ科 アオベンケイ (30)、マツノハマソウ (30)

ニシキギ目 ニシキギ科 ウメバチソウ (30)

キントラノオ目 スミレ科 エゾノタチツボスミレ (31)

バラ目 バラ科 ザイフリボク (31)、シウリザクラ (31)、ツルキジムシロ (32)、

サンショウバラ (32)、サナギイチゴ (32)、アイズシモツケ (33)

グミ科 ハコネグミ (33)

クロウメモドキ科 ヨコグラノキ (33)

ムクロジ目 ムクロジ科 ヒトツバカエデ (34)、テツカエデ (34)

ミズキ目 アジサイ科 ウメウツギ (34)

ツツジ目 ツバキ科 ナツツバキ (35)

サクラソウ科 コイワザクラ (35)

ツツジ科 ムラサキツリガネツツジ (35)、シャクジョウソウ (36)、

サツキ (36)、ヒカゲツツジ (36)、ハコネコメツツジ (37)

目名称不定 ムラサキ科 サワリソウ (37)

リンドウ目 アカネ科 イナモリソウ (37)、オオキヌタソウ (38)

リンドウ科 ホソバノツルリンドウ (38)

キョウチクトウ科 コカモメヅル (38)

ナス目 ナス科 アオホオズキ (39)

シソ目 モクセイ科 ミヤマアオダモ (39)

シソ科 キセワタ (39)、トウゴクシソバタツナミ (40)

オオバコ科 クガイソウ (40)

セリ目 セリ科 アマニュウ (40)、ヒカゲミツバ (41)

マツムシソウ目 スイカズラ科 ナベナ (41)、アシタカマツムシソウ (41)

キク目 キク科 ヤマノコギリソウ (42)、タテヤマギク (42)、メタカラコウ (42)、

オオモミジガサ (43)、セイタカトウヒレン (43)、コウリンカ (43)

丹沢の希少植物リスト ----- 44

参考文献 ----- 50

和名索引 ----- 51

はじめに

この図鑑は、神奈川県自然環境保全センター研究連携課（旧研究部）が12年間にわたり、様々な機会に写真として記録してきた丹沢の希少植物の現状をまとめたものです。

丹沢の希少植物の種類数は約200種あり、絶滅した種^{しゆ}を含めると300種あまりの分布記録があります。そのうちの108種をこの図鑑の写真集に掲載しています。希少となった理由はそれぞれの植物で異なります。希少であるが故に丹沢の山中でいつも出会えるわけではありません。また、出会ったとしても最良の生育状態を撮影できるわけではありません。花の時期にあたらなかったり、限られた分布地点のため未成熟で花を着けない個体しかない場合もあります。それでも希少植物の生育状態がわかることに価値があると考え、植物写真としては不十分なものもあえて掲載しています。

当センター研究連携課で希少植物の調査を開始した経緯は、2000年の当センター設立時に遡ります。旧丹沢大山自然公園管理事務所（現当センター自然公園課）が丹沢山や蛭ヶ岳周辺でニホンジカの採食から植生を保護するための柵（植生保護柵）を1997年から設置していましたが、柵による植生回復の効果は確認されていませんでした。そこで、当センターが設立された2000年から自然公園課と連携して柵による植生回復の調査を開始したところ、その年の8月に柵内で神奈川県絶滅危惧種のクルマユリを発見できました。このことから柵は植生の回復だけでなく絶滅危惧種の回復にも貢献しているとの仮説のもとに、翌2001年から丹沢の広域で柵内の希少植物の生育状況調査を開始しました。その結果、絶滅したとされていたイッポンワラビ（2001年7月）やノビネチドリ（2002年6月）、クガイソウ（2002年7月）を確認したのをはじめ、神奈川県では新発見となるタカネサトメシダ（2001年7月）やウスゲミヤマシケシダ（2006年8月）も発見することができました。このように柵による希少植物の回復効果が実証されました。

その後、当センター研究連携課では2004年から丹沢大山総合調査の維管束植物グループに加わり、他の希少植物の生育状況調査に取り組んできました。また、環境省絶滅危惧種のなかでも保護上の緊急性や重要性があるヤシャイノデとサガミジョウロウホトトギスの現状把握と遺伝的変異の研究、保全対策の検討を行ってきました。

これまでに写真に記録できた種は丹沢の希少植物の一部ですが、希少植物の現状を知る機会になればと考え、希少植物の調査から12年がたったのを期に公表することにしました。この図鑑を通じて、現在丹沢でおきているブナ枯れやニホンジカの強い採食圧による植生の衰退という問題や、それを解決するための自然再生の取り組みにも興味をもっていただければ幸いです。

平成24年3月

神奈川県自然環境保全センター研究連携課

丹沢の希少植物とその保全

1. 丹沢の希少植物

丹沢に生育する植物の種類数は 1,627 種といわれています（勝山ほか 2007b）。この図鑑では『神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006』（高桑ほか 2006、以下、神奈川 RDB2006）と環境省の改訂版レッドリスト（http://www.biodic.go.jp/rdb/rdb_f.html、2011 年 12 月 14 日確認、以下、環境省 RL）に掲載されている種のうち、丹沢で記録されているものを対象としました。そのほか両方に掲載されていなくても丹沢で稀な種は対象としました。なお、本図鑑での丹沢とは、北を道志川、東を相模川、南を国道 246 号周辺、西を神奈川県と山梨県・静岡県の間境で区切った範囲で、行政単位では 8 市町村（旧津久井町、愛川町、清川村、厚木市、伊勢原市、秦野市、松田町、山北町）が含まれます。

とりあげた種は合計で 306 種です。そのうちの 108 種について写真集（p.7 ～）で紹介しました。

2. 希少植物のカテゴリーとその判定方法

本図鑑で示した神奈川 RDB2006 カテゴリーと環境省 RL カテゴリーはいずれも次の 5 つに区分されています。

絶滅・・・すでに絶滅したと考えられる種

絶滅危惧 I A 類・・・ごく近い将来に絶滅の危険性が極めて高い種

絶滅危惧 I B 類・・・I A 類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種

絶滅危惧 II 類・・・絶滅の危険が増大している種

準絶滅危惧・・・現時点では絶滅の危険性は低いが、生育条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

情報不足・・・評価する情報が不足している種

カテゴリーの判定方法には次の 5 つの方法があります。

A 基準：減少率で判定

B 基準：生育地の面積または地点数で判定

C 基準：個体数と減少率の両方で判定

D 基準：個体数で判定

E 基準：絶滅確率の推定値で判定

本図鑑で参照した神奈川 RDB2006 では A 基準と C 基準、D 基準が用いられています（表 1）。

種によりカテゴリー区分のために得られる情報項目は異なります。そのため、減少率や個体数といった情報項目が同じでも、どの基準を採用するかでカテゴリーが異なる場合もあります。

表 1 絶滅危惧種のカテゴリー区分の基準

カテゴリー	A基準	C基準	D基準
絶滅危惧 I A類	減少率80%以上	個体数250株未満で減少率が25%以上	個体数が50株未満
絶滅危惧 I B類	〃 50%以上	〃 2500株未満で 〃 が20%以上	〃 250株未満
絶滅危惧 II類	〃 30%以上	〃 10000株未満で 〃 が10%以上	〃 1000株未満

3. 丹沢の希少植物の分布特性

丹沢の希少植物のなかには、同じような地理的分布をもつ植物群が 4 つあります。

①フォッサマグナ要素植物

フォッサマグナ（糸魚川ー静岡構造線の東側の地溝帯）と呼ばれる地質的な広い帯状の境界の南部に限定して分布する植物群です（図 1 左）。分布範囲は、北は八ヶ岳、西は赤石山脈、東は関東山地から房総半島、南は伊豆諸島の青ヶ島に至る地域に限定され、すべて地域固有種です。丹沢の希少植物ではサガミジョウロウホトトギスやムラサキツリガネツツジ、ハコネコメツツジ、ハコネグミなどです。この植物群のなかで県内では個体数が多いことから神奈川 RDB2006 では健在種とされたサンショウバラやマツノハマネンゲサ、タテヤマギクは全国レベルでは分布が限られるため、環境省 RL では絶滅危惧 II 類に区分されています。

②襲速紀（ソハヤキ）要素植物

九州から東海地方の太平洋側を中心に分布する植物群です（図 1 左）。襲速紀の「襲」は熊襲（九州南部の古名）、「速」は速吸の瀬戸（豊予海峡）、「紀」は紀伊（和歌山県と三重県の南部）で、これらをつなげた造語です。この要素の植物の分布は中央構造線の南側（西南日本外帯）とほぼ一致することから地史的に分布が規定されたという考えがあります。その一方で、夏季の冷涼多雨に規定されているという考えもあります。丹沢にも分布している種があり、希少植物ではオオモミジガサやイワユキノシタ、ヨコグラノキなどです。

③寒地性植物

北海道から東北地方、本州中部の標高の高い地域に分布する植物群です（図 1 右）。気候や植生帯でいうと寒温帯やダケカンバ帯に主に分布しています。丹沢での分布は標高 1,500m 以上の山頂部付近に限られます。これは今より寒冷な時代に分布を広げた植物群が温暖になり山頂部付近に取り残されたものと考えられます。希少植物ではクルマユリやモミジカラマツ、アマニュウなどです。

④暖地性植物

九州から四国、中国地方から日本海側では能登半島、太平洋側では紀伊半島、種により伊豆半島や房総半島にかけて分布する植物群です（図1右）。丹沢での分布は山麓部に限られます。希少植物ではナガサキシダやニセクモウクジャク、タキミシダといったシダ植物などです。



図1 分布類型

4. 希少植物の保全対策

希少植物のおかれた状況は、同じカテゴリーであってもそれぞれの種により異なります。希少植物の保全では、種ごとの分布地点数や個体数、生育環境、生活史、遺伝的多様度などの種特性や減少要因をふまえて、緊急性のある種から優先順位をつけて対策をたてていくことが大切です。しかし、分布地点数や個体数が限られる希少植物では、種特性がわかっていることは少ないのが実情です。

そこで次善の策として、各希少植物の減少要因を推定して、その要因を除く対策を実施した前後で、各種の生育状態をモニタリングするという仮説検証型の方法で調査しながら対策を進めていきます。また、生育地点や個体数が少ない希少植物では、人口学的確率性や環境のゆらぎで地域絶滅することがあります。そのため希少植物の保全では定期的に個体数と生育環境の変化をモニタリングすることが基本です。その種の増減傾向や減少要因、生態的特性もその過程で明らかになっていきます。減少要因の推定については神奈川 RDB2006 が参考になります。産地局限や園芸採取、自然遷移、シカ採食などがあげられています。ただしあくまでも観察に基づく推定であることに注意が必要です。

希少植物の保全の原則は生育地での保全です。この場合、生育地において減少要因を取り除く対策を実施します。個体数が少ない、あるいは少なくなり生育地での繁殖が難しい場合は、生育地外での保全を検討することになります。種子や胞子を採取して増殖する方法などです。その際はその種の遺伝的変異を調べたうえで、変異ごとに種子や胞子を採取することが必要です。その種のたどってきた歴史を消してしまわないように、人為的に分布範囲を広げたり、個体数を増加させることは慎むべきです。

当センターが実際に取り組んできた保全対策と調査結果を、シカの影響で地域絶滅が心配されているクルマユリとレンゲショウマなどの多年生草本と、全国的にも分布や個体数が限定されるヤシャイノデとサガミジョウロウホトトギスを例に紹介します。

①クルマユリやレンゲショウマなどの多年生草本

1980年代後半からブナ林の林床に生育する希少植物はシカの影響でほとんど見ることはできなくなりました。そこで、1997年から当センター自然公園課では植生保護柵（写真1、2）を丹沢の多くの山域に複数基設置して、希少植物や林床植物を保護しています。また、2001年からは柵内の希少植物調査も行なっています。その調査では神奈川県内の希少植物の多年生草本が柵内で18種確認され、そのなかにはシカの影響で絶滅したとされていたクガイソウやイッポンワラビもありました。この18種のうちの15種が神奈川RDB2006でシカの採食を減少要因とする希少植物でした。シカの採食を減少要因とする希少植物は丹沢全域で全部で19種あるとされていることから、実に8割の種が柵の設置で保護されていることとなります。

柵は希少植物の保護と回復に効果を発揮していますが、シカの影響を長く受けたあとに柵を設置しても、すべての種が回復するわけではありません。例えば、多年生草本のハルナユキザサはシカの採食圧を長く受けると消失しやすいことがわかっています。本来ならシカの密度が低下して希少植物が回復することが理想ですが、それを待てずに地域絶滅する種があるかもしれません。

このため、丹沢において希少植物が集中して分布するホットスポットに一通り柵が設置されています。そこにはシカの採食を減少要因とする希少植物が多数生育しています。柵内は丹沢全域からみれば限られた面積ですが、希少植物の緊急避難場所として機能しています。柵は、いずれ柵外においてシカの密度が低下して、希少植物が分布拡大する際の種子の供給源となることが期待されています。



写真1 植生保護柵（石棚山稜）



写真2 柵の説明看板（当初のもの）

②ヤシャイノデ

ヤシャイノデは全国で長野県下伊那郡上村と山梨県南都留郡道志村、神奈川県足柄上郡山北町の3箇所だけに分布が知られるシダ植物です（写真3）。丹沢でのヤシャイノデは、2004年は2集団で21個体、2006年は18個体あり、そのうち胞子をつけた成熟個体は両年ともに2個体のみでした。ヤシャイノデの成熟を阻害している要因はシカの採食と考えられています。2006年に2集団の計17個体について遺伝分析を行ったところ、3倍体の無配生殖種のため集団内の遺伝的変異は少なかった

たものの、少なくとも2つの遺伝的に異なる系統を含んでいることが明らかになりました。保全対策として、生育地に植生保護柵を設置しました。また、当センター内で胞子を培養して小苗を育成しています(写真4)。小苗は現地の個体の生育状況をみながら、必要な時が来れば、柵内外に植え戻していくためのものです。

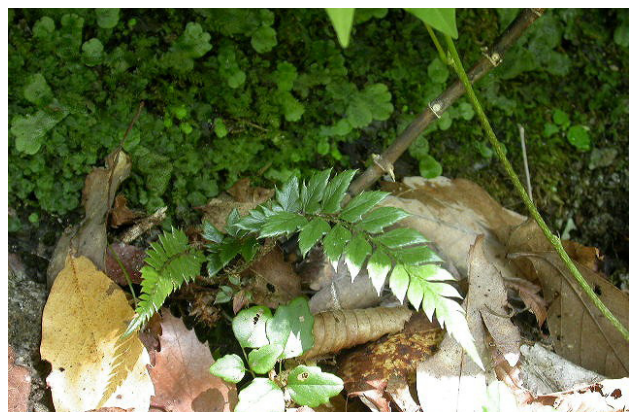


写真3 生育地にある小さな個体



写真4 胞子から培養したヤシャイノデの小苗

③サガミジョウロウホトトギス

サガミジョウロウホトトギスは全国で丹沢山地にのみ分布する神奈川県固有種です(写真5)。以前に比べて個体数が減少したとはいえ、2004年には個体数が2集団で500～1,000個体ありました。2007年にこの2集団のなかの計169個体について遺伝分析を行ったところ、2集団は遺伝的多様度を高いレベルで保持していることや、2集団は遺伝的に差異がないこと、2集団は過去に絶滅に瀕するほど個体数が減少したことはなく、外交配に由来する種子繁殖によって世代更新を続けていることが明らかになりました。サガミジョウロウホトトギスは分布が限られているものの、ヤシャイノデのように積極的な保全対策をとる必要はなく、現状を維持し、個体数が減少しないように見守ることで種の存続が可能であると考えられます。



写真5 サガミジョウロウホトトギス

丹沢の希少植物写真集

- 種名は和名および学名ともに米倉・梶田による「BG Plants 和名ー学名インデックス」(YList、http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html、2011年7月1日確認)に準拠しました。
- 科名とその配列は『植物分類表』(大場編 2009)に準拠しました。
- 科内の種名順序は学名のアルファベット順にしました。
- 本文中の神奈川 RDB カテゴリーは、神奈川 RDB2006 にとりあげられている種についてはそのカテゴリーを、それ以降新たに発見されたものについては「県新産」と記しました。
- 環境省 RL カテゴリーは、環境省の改訂版レッドリスト (http://www.biodic.go.jp/rdb/rdb_f.html)でのカテゴリーを記しました。
- 国内分布は『神奈川県植物誌 2001』(以下、植物誌 2001)を参照しました。
- 生育環境と生活型は植物誌 2001 を参考にして、野外観察にもとづいて記述するよう心がけました。
- 現状は、生育地点の概数とわかる範囲の個体数を記しました。生育地点数は植物誌 2001 において 1979 年以降に標本が採集された地点と、その後の調査で新たに確認した地点を合計しました。
- 写真は丹沢山地内で撮影したものを主として載せました。丹沢以外の場所で撮影したものは、地名を記しました。
- 撮影した時期が開花期にあたらなかった場合や未成熟株だった場合では花のない写真になっています。生活史の中のある段階を示した写真としてご覧ください。

なお、『神奈川県レッドデータ生物調査報告書 1995』は神奈川 RDB1995 としました。



2009年10月15日

スギラン ヒカゲノカズラ科

Huperzia cryptomerina (Maxim.) Dixit

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

環境省 RL カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

国内分布：北海道（東部）、本州、四国、九州

生育環境：暖温帯上部～冷温帯のブナなどの
樹幹や岩場

生活型：常緑の多年草

現状：10箇所以上の生育地があり、沢沿いでは
ケヤキ、稜線ではブナなどの大木に着生して
いることが多い。



2004年6月15日

エゾノヒメクラマゴケ イワヒバ科

Selaginella helvetica (L.) Spring

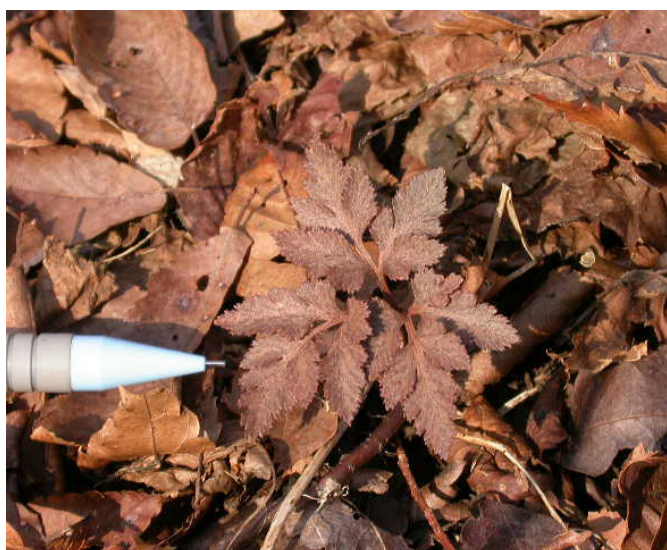
神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

国内分布：北海道、本州

生育環境：冷温帯の湿った岩場

生活型：多年草

現状：4箇所の生育地がある。写真の個体群は
崩壊地わきに生育していた。



2003年12月30日

ウスイハナワラビ ハナヤスリ科

Botrychium nipponicum Makino var. *minus*
(H.Hara) K.Iwats.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

国内分布：本州（東北、関東、中部地方）

生育環境：冷温帯の落葉広葉樹林内

生活型：冬緑の多年草

現状：1箇所の生育地がある。山頂緩斜面のケヤ
キ林下に1集団で合計100個体以上が生育し
ていた。ただしアカハナワラビの可能性があ
り、要検討の集団である。



2009年5月18日

ヤマドリゼンマイ ゼンマイ科

Osmunda cinnamomea L. subsp. *asiatica*
(Fernald)Fraser-Jenk.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I B 類

国内分布：北海道、本州、四国、九州

生育環境：冷温帯の湿地や落葉広葉樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：1箇所の生育地がある。山梨県との県境
尾根に1株あった。



2009年5月27日

ヒメコケシノブ コケシノブ科

Hymenophyllum coreanum Nakai

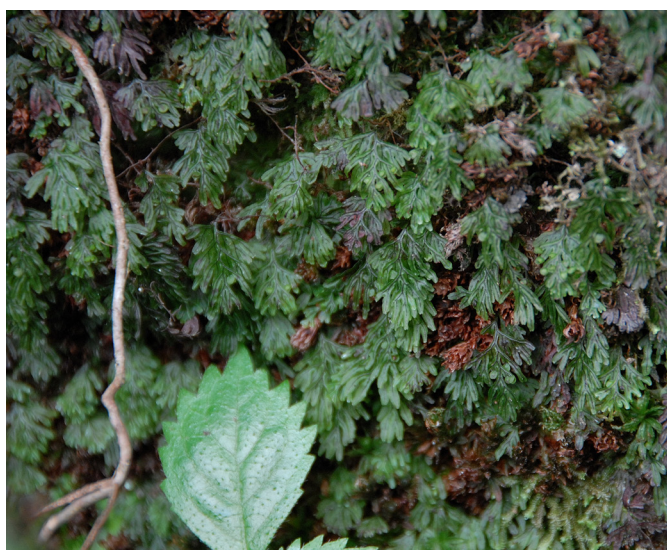
神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 II 類

国内分布：不明

生育環境：冷温帯の樹林内の岩場や樹幹

生活型：常緑の多年草

現状：数箇所の生育地がある。かつてはホソバ
コケシノブと混同されていた。探せばさらに
生育地は増えると思われる。



2009年6月29日箱根

コケシノブ コケシノブ科

Hymenophyllum wrightii Bosch

神奈川 RDB カテゴリー：準絶滅危惧

国内分布：北海道、本州、四国、九州

生育環境：冷温帯の樹林内の岩場や樹幹

生活型：常緑の多年草

現状：10箇所程度の生育地がある。標高の高い
岩上に点在。ヒメコケシノブより少ないと思
われる。



2006年2月18日

キジノオシダ キジノオシダ科

Plagiogyria japonica Nakai

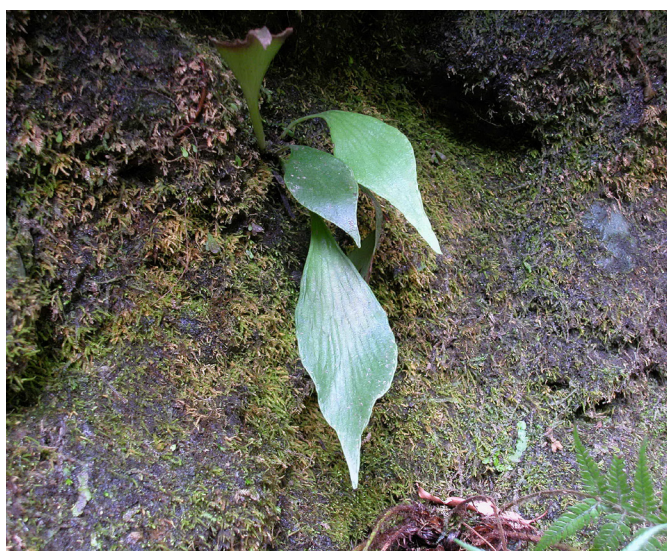
神奈川 RDB カテゴリー：準絶滅危惧

国内分布：本州（秋田県・福島県以南）、四国、九州

生育環境：暖温帯の湿った樹林内

生活型：常緑の多年草

現状：1箇所の生育地がある。山北町のスギ林内に1株生育していたが、2011年に現地に行ったところ見当たらなかった。



2006年3月26日

タキミシダ イノモトソウ科

Antrophyum obovatum Baker

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I A 類

環境省 RL カテゴリー：絶滅危惧 I B 類

国内分布：本州（富山県・千葉県以西）、四国、九州

生育環境：暖温帯の湿った岩場

生活型：常緑の多年草

現状：丹沢では写真の1株が2006年に発見された。2010年9月の台風により生育環境は激変したが、2011年1月時点で生育していた。



2007年6月5日

ヒメウラジロ イノモトソウ科

Cheilanthes argentea (S.G.Gmel.) Kunze

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I B 類

環境省 RL カテゴリー：絶滅危惧 II 類

国内分布：本州、四国、九州、琉球

生育環境：暖温帯上部の山地の岩場や石垣

生活型：常緑の多年草

現状：2箇所の生育地がある。写真の生育地は2000個体の集団である。



2009年4月30日

ヒメイワトラノオ チャセンシダ科

Asplenium capillipes Makino

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

国内分布：北海道（南部）、本州（栃木県以西
岡山県まで）、四国（徳島県）、九州（熊本県）

生育環境：冷温帯の湿ったやや暗い岩場

生活型：常緑の多年草

現状：7箇所の生育地がある。一般に葉軸に無性芽がつく。写真の集団は無性芽があったが写真ではわかりづらい。



2008年10月17日

チャセンシダ チャセンシダ科

Asplenium trichomanes L.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧ⅠA類

国内分布：北海道、本州（青森県と新潟県・
神奈川県以西）、四国、九州

生育環境：暖温帯の山麓の岩場や人里近くの
石垣など

生活型：常緑の多年草

現状：2箇所の生育地がある。写真の集団は道路
わきの岩壁に着生していた。



2009年6月8日

イヌチャセンシダ チャセンシダ科

Asplenium tripteropus Nakai

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類

国内分布：本州（秋田県および神奈川県以西）、
四国、九州

生育環境：暖温帯の山地溪谷の岩場や路傍の
石垣など

生活型：常緑の多年草

現状：2箇所の生育地がある。チャセンシダに
似るが、葉軸に3つの翼がある。



2011年1月31日

タニイヌワラビ イワデンド科

Athyrium otophorum (Miq.) Koidz.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

国内分布：本州（山形県以南、千葉県以西）、
四国、九州

生育環境：暖温帯の山地の湿った樹林内

生活型：常緑の多年草

現状：3箇所の生育地がある。写真の場所では
10～20個体があった。



2007年6月5日

タカネサトメシダ イワデンド科

Athyrium pinetorum Tagawa

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧ⅠA類

国内分布：本州（中部以北）、四国（徳島県）

生育環境：冷温帯の落葉広葉樹林内（県内）や
寒温帯針葉樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：3箇所に1株ずつあったが、うち1箇所
では2008年以降見当たらない。



2007年6月5日

イッポンワラビ イワデンド科

Cornopteris crenuloserrulata (Makino) Nakai

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧ⅠA類

国内分布：北海道、本州（中部以北、鳥取県）

生育環境：冷温帯の湿った落葉広葉樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：3箇所の生育地がある。神奈川 RDB1995
で絶滅種扱いであったが、2001年に植生保護
柵内で再発見された。



2006年8月10日

ウスゲミヤマシケシダ イワデンダ科

Deparia mucilagina (M.Kato) Nakaike

神奈川 RDB カテゴリー：2006年県新産

国内分布：北海道、本州（ミヤマシケシダと混

同されていたため、本変種の詳細な分布は

不明であるが、日本海側に偏る傾向あり。）

生育環境：冷温帯の湿った落葉広葉樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：1箇所の生育地がある。2006年に発見され、

県新産となった。1株のみあった。



2006年9月22日

ウスゲミヤマシケシダ×ハクモウイノデ

イワデンダ科

Deparia mucilagina (M.Kato) Nakaike

× *D. orientalis* (Z.R.Wang et J.J.Chien) Nakaike

神奈川 RDB カテゴリー：—

国内分布：不明

生育環境：冷温帯の湿った落葉広葉樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：上記ウスゲミヤマシケシダから8m離れ

て本雑種が1株あった。



2011年1月31日

ニセコクモウクジャク イワデンダ科

Diplazium virescens Kunze var. *conterminum*

(H.Christ) Sa.Kurata

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I B 類

国内分布：本州（神奈川県以西）、四国、九州、
琉球

生育環境：暖温帯の樹林内

生活型：常緑の多年草

現状：1箇所の生育地がある。



2005年9月12日

アイハリガネワラビ ヒメシダ科

Thelypteris japonica (Baker) Ching

× *T. musashiensis* (Hiyama) Nakato, Sahashi et M.Kato

神奈川 RDB カテゴリー：－

国内分布：不明

生育環境：冷温帯の湿った岩場

生活型：夏緑の多年草

現状：1箇所の生育地がある。丹沢ではイワハリガネワラビが少ないため、本雑種も限られる。



2009年4月26日

ミドリカナワラビ オシダ科

Arachniodes nipponica (Rosenst.) Ohwi

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

国内分布：本州（千葉県以西）、四国、九州

生育環境：暖温帯の山地のやや湿った樹林内や岩場

生活型：常緑の多年草

現状：5箇所程度の生育地がある。湯河原方面では林床に生えているが、丹沢では急な岩壁に生育していることが多い。



2004年4月9日

ナガサキシダ オシダ科

Dryopteris sieboldii (Van Houtte ex Mett.) Kuntze

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類

国内分布：本州（千葉県以西）、四国、九州

生育環境：暖温帯の山地の湿った樹林内

生活型：常緑の多年草

現状：1箇所の生育地がある。写真の生育地には20株程度が生育している。近年、新たに城山町で1株が見出された。



2006年5月11日

ホソイノデ オシダ科

Polystichum braunii (Spenn.) Fée

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I A 類

国内分布：北海道、本州（中部以北と鳥取県、山口県）

生育環境：冷温帯～寒温帯の樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：2 箇所の生育地があったが、うち 1 箇所では 2007 年以降に消失した。



2006年5月11日

ヤシャイノデ オシダ科

Polystichum neolobatum Nakai

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I A 類

環境省 RL カテゴリー：絶滅危惧 I A 類

国内分布：本州（長野県、山梨県、神奈川県）

生育環境：暖温帯上部の山地の樹林内

生活型：常緑の多年草

現状：2 箇所の生育地がある。合計 20 株未満しかなく、胞子をつけた成熟株は 2～3 株のみ。シカの採食で成熟できないと考えられている。



2005年3月20日

オニイノデ オシダ科

Polystichum rigens Tagawa

神奈川 RDB カテゴリー：—

環境省 RL カテゴリー：絶滅危惧 II 類

国内分布：本州（茨城県以西）

生育環境：暖温帯上部の岩場や樹林内

生活型：常緑の多年草

現状：20 箇所程度の生育地がある。各箇所には複数の個体が生育している。



2005年10月16日

カラクサシダ ウラボシ科

Pleurosoriopsis makinoi (Maxim. ex Makino)

Fomin

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

国内分布：北海道、本州、四国、九州

生育環境：暖温帯～冷温帯の山地の岩場や樹幹

生活型：冬緑の多年草

現状：5箇所以上の生育地がある。



2009年4月30日

オオクボシダ ウラボシ科

Micropolypodium okuboi (Yatabe) Hayata

神奈川 RDB カテゴリー：—

国内分布：本州（秋田県以南）、四国、九州

生育環境：暖温帯～冷温帯の渓谷沿いの湿った岩場

生活型：常緑の多年草

現状：6箇所の生育地がある。各箇所の個体数は少ないため、カテゴリー外であるがとりあげた。



2009年12月1日

ハリモミ マツ科

Picea torano (Siebold ex K.Koch) Koehne

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

国内分布：本州（福島県以西）、四国、九州

生育環境：冷温帯の斜面～尾根

生活型：常緑高木

現状：10箇所以上の生育地がある。各箇所ともに個体数は少なく、稚幼樹は稀である。



2011年7月3日

ゴヨウマツ マツ科

Pinus parviflora Siebold et Zucc.

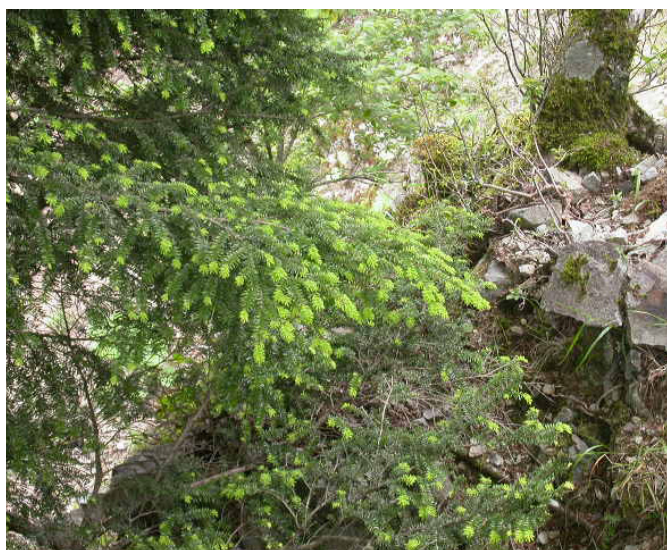
神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I A 類

国内分布：北海道（南部）、本州、四国、九州

生育環境：冷温帯～寒温帯のやせ尾根や急崖地

生活型：常緑高木

現状：3箇所の生育地がある。合計で 35 本の成木と 43 本の稚幼樹があった。



2004年6月16日

コメツガ マツ科

Tsuga diversifolia (Maxim.) Mast.

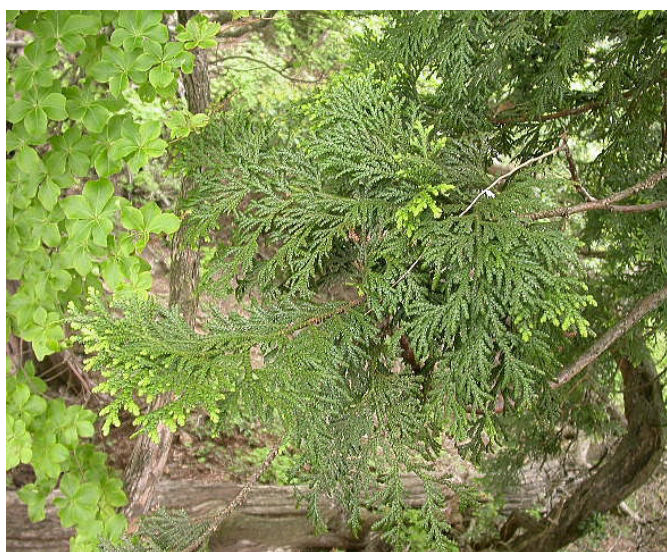
神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I A 類

国内分布：本州（中部地方以北、紀伊半島）、四国、九州（祖母山）

生育環境：冷温帯上部～寒温帯の急崖地や斜面

生活型：常緑高木

現状：3箇所程度の生育地がある。各箇所では小径木がほとんどである。



2006年6月2日

アスナロ ヒノキ科

Thujaopsis dolabrata (L.f.) Siebold et Zucc.

神奈川 RDB カテゴリー：—

国内分布：本州、四国、九州

生育環境：冷温帯の急崖地

生活型：常緑高木

現状：3箇所程度の生育地がある。植栽木か植栽木由来の個体を見かけるが、自生個体も確実にある。



2005年12月4日

ズソウカンアオイ ウマノスズクサ科

Asarum savatieri (Franch.) F.Maek.

subsp. *pseudosavatieri* (F.Maek.) T.Sugaw.

var. *pseudosavatieri* (F.Maek.) T.Sugaw.

神奈川 RDB カテゴリー：－

環境省 RL カテゴリー：準絶滅危惧

国内分布：伊豆半島、丹沢大倉尾根以西～世附

生育環境：暖温帯の山地の樹林内

生活型：常緑の多年草

現状：20箇所程度の生育地がある。



2004年6月15日

ウスバサイシン ウマノスズクサ科

Asarum sieboldii Miq.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

国内分布：本州、九州

生育環境：冷温帯の落葉広葉樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：7箇所程度の生育地がある。各箇所には
点々と個体がある。



2003年6月26日

クルマバツクバネソウ シュロソウ科

Paris verticillata M.Bieb.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧ⅠA類

国内分布：北海道、本州、四国、九州

生育環境：冷温帯の落葉広葉樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：4箇所程度の生育地がある。各箇所の個体
数は10個体未満と少ない。開花個体も少ない。



2010年4月7日

カタクリ ユリ科

Erythronium japonicum Decne.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I B 類

国内分布：北海道（南千島、南部）、本州、四国

生育環境：暖温帯～冷温帯の落葉広葉樹林内

生活型：多年草

現状：丹沢東部に生育地が5箇所程度ある。主に北斜面のコナラ林に生育している。アズマネザサの繁茂で個体数の減少が危惧されるところもある。



2009年7月12日

クルマユリ ユリ科

Lilium medeoloides A.Gray

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I A 類

国内分布：北海道、本州（近畿地方以北）、四国

生育環境：冷温帯上部～亜寒帯の草地や樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：5箇所程度の生育地がある。生育地はシカの影響が強いため、植生保護柵の外で見かけるのは稀である。



2004年9月13日

サガミジョウロウホトトギス ユリ科

Tricyrtis ishiana (Kitag. et T.Koyama) Ohwi et Okuyama

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I B 類

環境省 RL カテゴリー：絶滅危惧 I B 類

国内分布：神奈川県丹沢山地固有

生育環境：暖温帯上部～冷温帯下部の岩場

生活型：夏緑の多年草

現状：大きくわけて2箇所の生育地がある。各集団は遺伝的多様度が高く、種子繁殖によって世代更新していることがわかっている。



2011年5月26日箱根

エビネ ラン科

Calanthe discolor Lindl.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

環境省 RL カテゴリー：準絶滅危惧

国内分布：北海道（南西部以南）、本州、四国、九州、
琉球

生育環境：暖温帯の山野の樹林内

生活型：半常緑の多年草

現状：丹沢山麓を中心に 20 箇所程度の生育地があるが個体数は少ない。



2011年6月24日

コアツモリソウ ラン科

Cypripedium debile Rchb.f.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類

環境省 RL カテゴリー：準絶滅危惧

国内分布：北海道（渡島半島）、本州、四国、
九州

生育環境：暖温帯上部～冷温帯下部の樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：4 箇所の生育地がある。写真の場所では
1 個体のみあった。



2004年5月14日

クマガイソウ ラン科

Cypripedium japonicum Thunb.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類

環境省 RL カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

国内分布：北海道、本州、四国、九州

生育環境：暖温帯～冷温帯の樹林内や竹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：3 箇所程度の生育地がある。写真は人工林
にあった未成熟個体である。



2005年6月29日

ハコネラン ラン科

Ehippianthus sawadanus (F.Maek.) Ohwi ex Masam. et Satomi

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

環境省 RL カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

国内分布：本州（埼玉県、東京都、神奈川県、山梨県、静岡県、奈良県）

生育環境：冷温帯の落葉広葉樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：4箇所程度の生育地がある。写真の場所では1個体のみあった。



2009年6月8日

ベニシュスラン ラン科

Goodyera biflora (Lindl.) Hook.f.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類

国内分布：本州（青森県以南）、四国、九州

生育環境：暖温帯～冷温帯の山地樹林内の林床や岩場

生活型：常緑の多年草

現状：10箇所程度の生育地がある。各箇所の個体数は1～数個体である。



2002年6月7日

ノビネチドリ ラン科

Gymnadenia camtschatica (Cham.) Miyabe et Kudô

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧ⅠA類

国内分布：北海道、本州（中部以北）、四国

生育環境：冷温帯～寒温帯の湿り気のある草原、林縁、樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：神奈川 RDB1995 では絶滅種とされ、2002年に1個体が再発見された。2004年まではあったが、その後消失してしまった。



2002年5月5日

スズムシソウ ラン科

Liparis makinoana Schltr.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類

国内分布：北海道、本州、四国、九州

生育環境：冷温帯の落葉広葉樹林内やスギ植林内

生活型：夏緑の多年草

現状：4箇所程度の生育地がある。各箇所の個体数は1～数個体と少ない。



2011年6月24日

アオフタバラン ラン科

Listera makinoana Ohwi

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

国内分布：本州、四国、九州

生育環境：暖温帯上部～冷温帯の樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：4箇所程度の生育地がある。写真の場所では10～20個体があった。



2011年7月3日

タンザワサカネラン ラン科

Neottia inagakii Yagame, Katsuy. et T.Yukawa

神奈川 RDB カテゴリー：2008年新種として記載

国内分布：神奈川県、茨城県

生育環境：暖温帯上部～冷温帯下部の山地の樹林内

生活型：腐生植物

現状：2002年に気づかれ、2008年に新種として記載された種である。5箇所程度の生育地がある。サカネランに似るが、花期が6月下旬から7月上旬と遅い。



2011年6月10日

サカネラン ラン科

Neottia nidus-avis (L.) Rich. var. *mandshurica* Kom.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I B 類

環境省 RL カテゴリー：絶滅危惧 II 類

国内分布：北海道、本州（中部以北）、四国、九州（高隈山）

生育環境：冷温帯の山地の落葉広葉樹林内

生活型：腐生植物

現状：5箇所程度の生育地がある。



2004年6月15日

オノエラン ラン科

Chondradenia fauriei (Finet) Sawada ex F.Maek.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 II 類

国内分布：本州（中部以北、紀伊半島）

生育環境：冷温帯の疎林内、草原、風衝地、岩場などのやや日当たりの良いところ

生活型：夏緑の多年草

現状：5箇所程度の生育地がある。写真の場所では複数の個体が生育していた。



2004年6月15日

カモメラン ラン科

Galearis cyclochila (Franch. et Sav.) Soó

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I A 類

環境省 RL カテゴリー：準絶滅危惧

国内分布：北海道、本州（中部以北、紀伊半島）、四国

生育環境：冷温帯の山地の湿った疎林内や林縁

生活型：夏緑の多年草

現状：2箇所の生育地がある。写真の場所では1個体のみが生育していた。



2009年6月11日

コケイラン ラン科

Oreorchis patens (Lindl.) Lindl.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類

国内分布：北海道、本州、四国、九州

生育環境：冷温帯の溪谷沿いの湿潤な斜面や腐植に富んだ落葉広葉樹林内

生活型：常緑の多年草

現状：4箇所程度の生育地がある。



2003年7月31日

オオヤマサギソウ ラン科

Platanthera sachalinensis F.Schmidt

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

国内分布：北海道、本州、四国、九州

生育環境：冷温帯の山地の落葉広葉樹林内や林縁

生活型：夏緑の多年草

現状：3箇所程度の生育地がある。写真の場所では25～50個体あった。



2002年7月29日

ウチョウラン ラン科

Ponerorchis graminifolia Rchb.f.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧ⅠA類

環境省 RL カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

国内分布：本州、四国、九州

生育環境：冷温帯のやや湿った岩場

生活型：夏緑の多年草

現状：3箇所の生育地がある。一般には岩場に生育するが、写真の個体はミヤマクマザサ草原の切土面に生育していた。



2009年5月4日

カヤラン ラン科

Thrixspermum japonicum (Miq.) Rchb.f.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

国内分布：本州（岩手県以南）、四国、九州

生育環境：暖温帯～冷温帯下部のスギ、カヤなどの針葉樹やサクラ、ウメなどの落葉樹の樹幹

生活型：常緑の多年草

現状：7箇所程度の生育地がある。写真の個体は沢沿いのサクラに着生していた。



2011年6月24日

ヒトツボクロ ラン科

Tipularia japonica Matsum.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

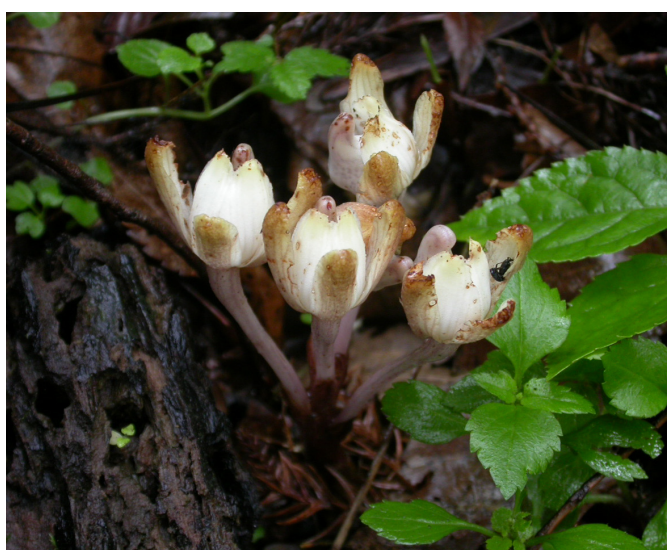
国内分布：本州（日本海側は青森県以南、

太平洋側は茨城県以西）、四国、九州

生育環境：暖温帯上部～冷温帯下部の尾根筋の樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：6箇所程度の生育地がある。写真の場所では10～20個体が生育していた。



2005年7月14日

キバナノショウキラン ラン科

Yoania amagiensis Nakai et F.Maek.

神奈川 RDB カテゴリー：—

環境省 RL カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類

国内分布：本州（関東～紀伊半島）、四国、九州

生育環境：冷温帯の落葉広葉樹林やスギ植林内

生活型：腐生植物

現状：7箇所の生育地があるが、毎年発生するとは限らない。



2003年7月27日 横浜

キジカクシ キジカクシ科

Asparagus schoberioides Kunth

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I B 類

国内分布：北海道、本州、四国、九州

生育環境：暖温帯～冷温帯の丘陵から山地の
草原や明るい樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：3箇所の生育地がある。属名のとおり野菜
のアスパラガス（オランダキジカクシ）と
同属である。



2008年6月19日

ハルナユキザサ キジカクシ科

Smilacina robusta Makino et Honda

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I B 類

国内分布：本州（関東地方、中部地方）

生育環境：冷温帯の落葉広葉樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：3箇所の生育地がある。写真の場所では
植生保護柵内に 100 個体以上が生育していた。



2009年5月18日

ルイヨウボタン メギ科

Caulophyllum robustum Maxim.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅

国内分布：北海道、本州、四国、九州

生育環境：暖温帯上部～冷温帯の樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：4箇所の生育地がある。各箇所では複数の
個体が生育しており、合計で 100 個体程度あっ
た。ニホンジカの採食圧の高いところで開
花個体が見られることから、ニホンジカの不嗜
好性植物の可能性はある。



2002年8月11日

レンゲショウマ キンポウゲ科

Anemonopsis macrophylla Siebold et Zucc.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I B 類

国内分布：本州（福島県～奈良県）の主として
太平洋側

生育環境：冷温帯の落葉広葉樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：7箇所程度の生育地がある。多くの個体は
植生保護柵内に生育する。



2009年7月12日

モミジカラムツ キンポウゲ科

Trautvetteria caroliniensis (Walter) Vail

var. *japonica* (Siebold et Zucc.) T.Shimizu

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I B 類

国内分布：北海道、本州（中部以北）

生育環境：冷温帯上部～亜寒帯の林縁や草地

生活型：夏緑の多年草

現状：1箇所の生育地がある。写真の場所では
10個体程度が生育していた。



2006年5月3日

ヤマブキソウ ケシ科

Hylomecon japonica (Thunb.) Prantl et Kündig

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 II 類

国内分布：本州（宮城県以南）、四国、九州

生育環境：暖温帯の落葉広葉樹林内や林縁

生活型：夏緑の多年草

現状：8箇所以上の生育地がある。各箇所ともに
複数の個体が生育する。



2005年8月16日

ミヤマツチトリモチ ツチトリモチ科

Balanophora nipponica Makino

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I B 類

環境省 RL カテゴリー：絶滅危惧 II 類

国内分布：本州（岩手県・秋田県以南）、四国、九州

生育環境：冷温帯の落葉広葉樹林内

生活型：落葉広葉樹の根に寄生する多年草

現状：5箇所程度の生育地がある。ナナカマドやコミネカエデに寄生することが観察されている。



2005年5月26日

ヤマシャクヤク ボタン科

Paeonia japonica (Makino) Miyabe et Takeda

神奈川 RDB カテゴリー：—

環境省 RL カテゴリー：準絶滅危惧

国内分布：本州（関東以西）、四国、九州

生育環境：暖温帯上部～冷温帯の落葉広葉樹林内や林縁

生活型：夏緑の多年草

現状：10箇所以上の生育地がある。各箇所では集団を形成する場合が多い。シカの不嗜好性植物の可能性はある。



2011年6月29日

ベニバナヤマシャクヤク ボタン科

Paeonia obovata Maxim.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I A 類

環境省 RL カテゴリー：絶滅危惧 II 類

国内分布：北海道、本州、四国、九州

生育環境：暖温帯上部の落葉広葉樹林内や林縁

生活型：夏緑の多年草

現状：1箇所の生育地がある。写真の場所では30～50個体が生育していた。



2009年8月17日

ヤシャビシヤク スグリ科

Ribes ambiguum Maxim.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

環境省 RL カテゴリー：準絶滅危惧

国内分布：本州、四国、九州

生育環境：冷温帯のブナなどの樹幹

生活型：落葉低木

現状：10箇所以上の生育地がある。ブナの大径木に着生する機会が多い。ブナ枯れで生育環境そのものの消失が危惧される。



2011年4月25日

ヤブサンザシ スグリ科

Ribes fasciculatum Siebold et Zucc.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧ⅠA類

国内分布：本州、四国、九州

生育環境：暖温帯の落葉広葉樹林の林縁

生活型：雌雄異株の落葉低木

現状：1箇所の生育地があり、1個体のみが生育していた。



2009年5月6日

ザリコミ スグリ科

Ribes maximowiczianum Kom.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類

国内分布：本州（関東地方、中部地方、滋賀県、中国地方）、四国（高知県）

生育環境：冷温帯の落葉広葉樹林内

生活型：雌雄異株の落葉低木

現状：2箇所の生育地がある。2010年に写真の場所ではすべての個体がシカに採食されていた。開花個体の減少が危惧される。



2009年10月15日

アオベンケイ ベンケイソウ科

Hylotelephium viride (Makino) H.Ohba

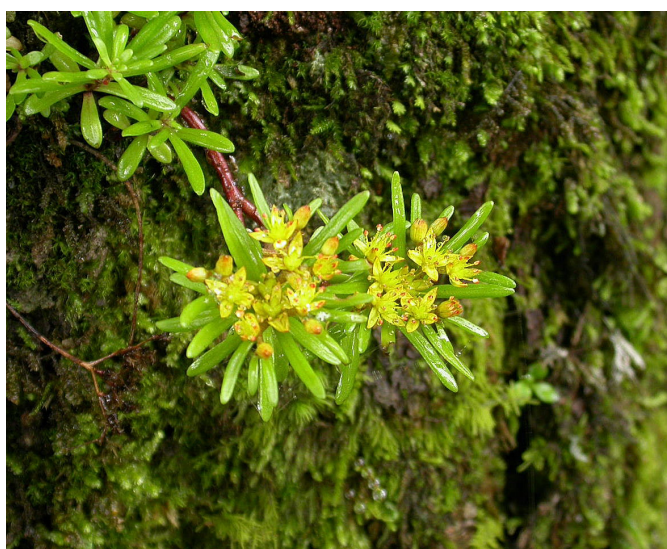
神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I A 類

国内分布：本州、四国、九州

生育環境：冷温帯の大径木の樹幹

生活型：夏緑の多年草

現状：3箇所程度の生育地がある。写真の個体はシナノキの巨木に着生していた。



2003年8月12日

マツノハマソウ ベンケイソウ科

Sedum hakonense Makino

神奈川 RDB カテゴリー：—

環境省 RL カテゴリー：絶滅危惧 II 類

国内分布：関東地方

生育環境：冷温帯のブナなどの樹幹

生活型：夏緑の多年草

現状：10箇所以上の生育地がある。ブナやイトマキイタヤなどの直径の太い樹幹に着生している。



2010年10月19日

ウメバチソウ ニシキギ科

Parnassia palustris L. var. *palustris*

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I B 類

国内分布：北海道、本州、四国、九州

生育環境：冷温帯の湿った草地、水のしみ出しのある崖地

生活型：夏緑の多年草

現状：3箇所程度の生育地がある。写真の場所では5～10個体あった。武田久吉は1905年に塔ノ岳に登り、山頂に本種があったことを記録している。



2011年6月10日

エゾノタチツボスミレ スミレ科

Viola acuminata Ledeb.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I A 類

国内分布：北海道、本州（中部以北）

生育環境：冷温帯の草地や落葉広葉樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：2箇所の生育地がある。写真の場所では
10個体程度が開花していた。



2008年5月5日

ザイフリボク バラ科

Amelanchier asiatica (Siebold et Zucc.) Endl.

ex Walp.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I A 類

国内分布：本州（岩手県以南）、四国、九州

生育環境：暖温帯上部の落葉広葉樹林内、林縁

生活型：落葉小高木

現状：1箇所の生育地がある。写真の場所では
10～20個体があった。



2002年6月17日

シウリザクラ バラ科

Padus siori (F.Schmidt) C.K.Schneid.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I B 類

国内分布：北海道、本州（中部以北）

生育環境：冷温帯の湿潤な斜面

生活型：落葉高木

現状：3箇所の生育地がある。各箇所ともに小集
団を形成している。



2010年5月17日箱根

ツルキジムシロ バラ科

Potentilla stolonifera Lehm. ex Ledeb.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I B 類

国内分布：北海道、本州、四国、九州

生育環境：冷温帯の草地や岩場などの明るい場所

生活型：夏緑の多年草

現状：丹沢では 2001 年以降の記録はない。キジムシロに似るが、地上匍枝があるのが特徴。



2010年6月21日

サンショウバラ バラ科

Rosa hirtula (Regel) Nakai

神奈川 RDB カテゴリー：なし

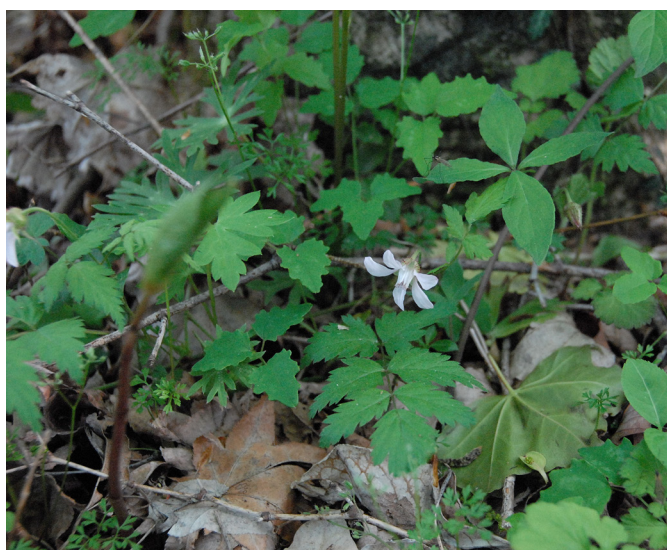
国 RDB カテゴリー：絶滅危惧 II 類

国内分布：神奈川県、山梨県、静岡県

生育環境：冷温帯の疎林や林縁

生活型：落葉小高木

現状：5 箇所程度の生育地がある。



2009年5月18日

サナギイチゴ バラ科

Rubus pungens Camb. var. *oldhamii* (Miq.) Maxim.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I A 類

国内分布：本州、四国、九州

生育環境：冷温帯の落葉広葉樹林内、林縁

生活型：落葉小低木

現状：3 箇所の生育地がある。合計で約 50 個体あったが開花個体は少ない。



2008年5月9日

アイズシモツケ バラ科

Spiraea chamaedryfolia L. var. *pilosa* (Nakai)

H.Hara

神奈川県 RDB カテゴリー：－

国内分布：北海道、本州（中部以北）、九州

生育環境：暖温帯上部～冷温帯の日当たりの
良い岩場や林縁

生活型：落葉低木

現状：3箇所の生育地がある。写真の場所には
1個体があった。



2011年6月10日

ハコネグミ グミ科

Elaeagnus matsunoana Makino

神奈川県 RDB カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

環境省 RL カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

国内分布：本州（富士、箱根、伊豆地方）

生育環境：冷温帯の疎林や林縁

生活型：落葉低木

現状：5箇所の生育地がある。県境の不老山～三
国山～大柵ノ頭にかけてある。



2005年5月8日

ヨコグラノキ クロウメモドキ科

Berchemiella berchemiifolia (Makino) Nakai

神奈川県 RDB カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類

国内分布：本州（岩手県以南）、四国、九州

生育環境：暖温帯上部の急傾斜地、林縁

生活型：落葉小高木

現状：5箇所程度の生育地がある。丹沢東部の
本谷川や早戸川、神ノ川周辺に生育地がある。
各箇所ともに小集団を形成している。



2009年5月18日

ヒトツバカエデ ムクロジ科

Acer distylum Siebold et Zucc.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類

国内分布：本州（東北地方～近畿地方）

生育環境：冷温帯の落葉広葉樹林

生活型：落葉高木

現状：2箇所の生育地がある。写真の場所では約20個体あった。



2007年6月3日, 2002年6月17日

テツカエデ ムクロジ科

Acer nipponicum H.Hara

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧ⅠA類

国内分布：本州、四国、九州

生育環境：冷温帯の落葉広葉樹林

生活型：落葉高木

現状：2002年に発見され県新産となった。蛭ヶ岳北斜面に3箇所の生育地がある。合計で約30個体があった。



2009年4月30日

ウメウツギ アジサイ科

Deutzia uniflora Shirai

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

環境省 RL カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

国内分布：関東山地、山梨県、静岡県、神奈川県

生育環境：暖温帯上部～冷温帯の溪谷や尾根上の岩場

生活型：落葉低木

現状：7箇所程度の生育地がある。



2009年5月18日

ナツツバキ ツバキ科

Stewartia pseudocamellia Maxim.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類

国内分布：本州（福島県・新潟県以南）、四国、九州

生育環境：冷温帯の落葉広葉樹林

生活型：落葉高木

現状：3箇所程度の生育地がある。



2009年4月30日

コイワザクラ サクラソウ科

Primula reinii Franch. et Sav.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

環境省 RL カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

国内分布：本州（埼玉県、東京都、神奈川県、山梨県、静岡県、奈良県）

生育環境：冷温帯の岩場や草地

生活型：夏緑の多年草

現状：6箇所程度の生育地がある。



2004年6月15日

ムラサキツリガネツツジ ツツジ科

Menziesia lasiophylla Nakai

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類

環境省 RL カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

国内分布：本州（山梨県、静岡県、神奈川県）

生育環境：冷温帯の岩場や疎林内

生活型：落葉低木

現状：4箇所の生育地がある。各箇所ともに小集団を形成している。



2009年7月12日

シャクジョウソウ ツツジ科

Monotropa hypopithys L.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I A 類

国内分布：北海道、本州、四国、九州

生育環境：暖温帯上部～冷温帯の樹林内

生活型：腐生植物

現状：4箇所程度の生育地がある。各箇所では
1～数個体が見られるのみ。



2009年6月7日

サツキ ツツジ科

Rhododendron indicum (L.) Sweet

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I B 類

国内分布：本州（神奈川県、東海地方、中部地方、
近畿地方、山口県）、九州、屋久島

生育環境：暖温帯の溪流沿いの岩場

生活型：常緑低木

現状：道志川沿いに生育地がある。かつて中津
川渓谷が生育地として有名であった。



2010年4月18日

ヒカゲツツジ ツツジ科

Rhododendron keiskei Miq.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I B 類

国内分布：本州（新潟県・福島県以西）、四国、
九州

生育環境：暖温帯上部の岩場

生活型：常緑低木

現状：1箇所の生育地がある。合計で50～100
個体があった。



2009年7月12日

ハコネコメツツジ ツツジ科

Rhododendron tsusiophyllum Sugim.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

環境省 RL カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

国内分布：本州（埼玉県、山梨県、長野県、
神奈川県、伊豆諸島）

生育環境：冷温帯の風衝地の岩場

生活型：常緑低木

現状：5箇所程度の生育地がある。1913年に
丹沢山に登った武田久吉はすでに本種を見て
いる。



2009年6月4日

サウルリソウ ムラサキ科

Ancistrocarya japonica Maxim.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

国内分布：本州（関東地方以西）、四国、九州

生育環境：暖温帯上部～冷温帯の樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：5箇所の生育地がある。各箇所ともに集団
を形成する。ニホンジカの採食圧の高いとこ
ろで開花個体が見られることから、ニホンジ
カの不嗜好性植物の可能性はある。



2011年7月16日相模原市緑区

イナモリソウ アカネ科

Pseudopyxis depressa Miq.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類

国内分布：本州（関東地方以西）、四国、九州

生育環境：暖温帯の樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：1箇所の生育地があるが、2000年以降、
丹沢の記録はない。



2002年6月26日

オオキヌタソウ アカネ科

Rubia chinensis Regel et Maack f. *mitis* (Miq.) Kitag.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I A 類

国内分布：北海道、本州、四国、九州

生育環境：冷温帯の落葉広葉樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：1箇所の生育地があり、2個体が生育していた。



2011年9月29日

ホソバノツルリンドウ リンドウ科

Pterygocalyx volubilis Maxim.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I B 類

環境省 RL カテゴリー：絶滅危惧 II 類

国内分布：北海道、本州、四国

生育環境：冷温帯の湿った樹林内や林縁、草原

生活型：夏緑の多年草

現状：2箇所の生育地がある。写真の場所では成熟株は少なくとも4株あり、未成熟株は多数あった。



2011年8月27日

コカモメヅル キョウチクトウ科

Tylophora floribunda Miq.

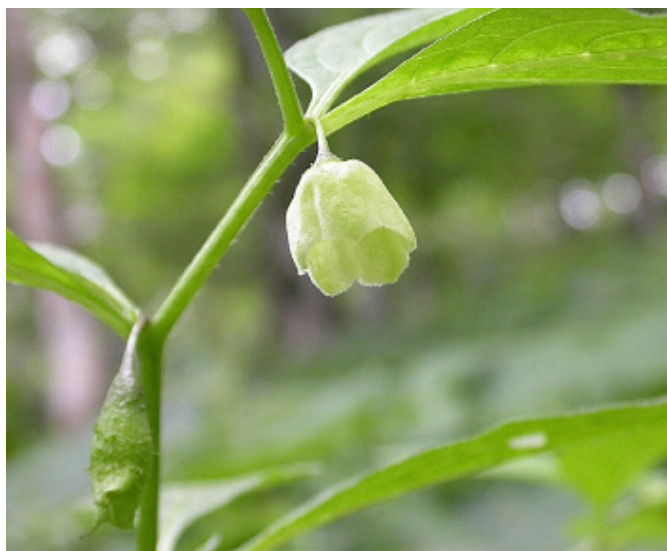
神奈川 RDB カテゴリー：消息不明種

国内分布：本州、四国、九州

生育環境：明るい湿性草地

生活型：夏緑の多年草

現状：1箇所の生育地があり、少なくとも5個体はあった。植物誌 2001 では横浜で採集されたものを移入としている。写真の場所も造成地のため、移入の可能性はある。



2008年7月15日

アオホオズキ ナス科

Physaliastrum japonicum (Franch. et Sav.) Honda

神奈川 RDB カテゴリー：－

環境省 RL カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

国内分布：本州の太平洋側（関東南部～紀伊半島）

生育環境：冷温帯の落葉広葉樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：7箇所程度の生育地がある。



2010年7月16日

ミヤマアオダモ モクセイ科

Fraxinus apertisquamifera H.Hara

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧ⅠA類

国内分布：本州（中部）、四国

生育環境：冷温帯上部～寒温帯の樹林

生活型：落葉小高木

現状：5箇所程度の生育地がある。合計で50
個体以上はあった。



2011年8月30日

キセワタ シソ科

Leonurus macranthus Maxim.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧ⅠB類

環境省 RL カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

国内分布：北海道、本州、四国、九州

生育環境：暖温帯～冷温帯の草地や林縁

生活型：夏緑の多年草

現状：9箇所の生育地がある。写真の場所では
成熟株は4株あった。



2009年6月7日

トウゴクシソバツナミ シソ科

Scutellaria laeteviolacea Koidz. var. *abbreviata*
(H.Hara) H.Hara

神奈川県 RDB カテゴリー：消息不明種

国内分布：本州（東北地方南部～中部地方）

生育環境：暖温帯～冷温帯下部の樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：標本を伴わない記録が過去にあり、神奈川県 RDB2006 では消息不明種とされたが、久江（2008）により現存することが確認された。その後2箇所で見つかっている。



2005年7月20日

クガイソウ オオバコ科

Veronicastrum japonicum (Nakai) T.Yamaz.
var. *japonicum*

神奈川県 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I A 類

国内分布：本州

生育環境：冷温帯～寒温帯の草原や林縁

生活型：夏緑の多年草

現状：神奈川県 RDB1995 では絶滅種扱いであったが、2002年に再発見された。1箇所に20～50個体あった。



2008年9月5日

アマニュウ セリ科

Angelica edulis Miyabe ex Y.Yabe

神奈川県 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I A 類

国内分布：北海道、本州（中部地方以北）

生育環境：冷温帯の草地や林縁、明るい樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：大室山付近に2箇所の生育地がある。合計でも10個体未満である。



2010年8月10日

ヒカゲミツバ セリ科

Spuriopimpinella koreana (Y.Yabe) Kitag.

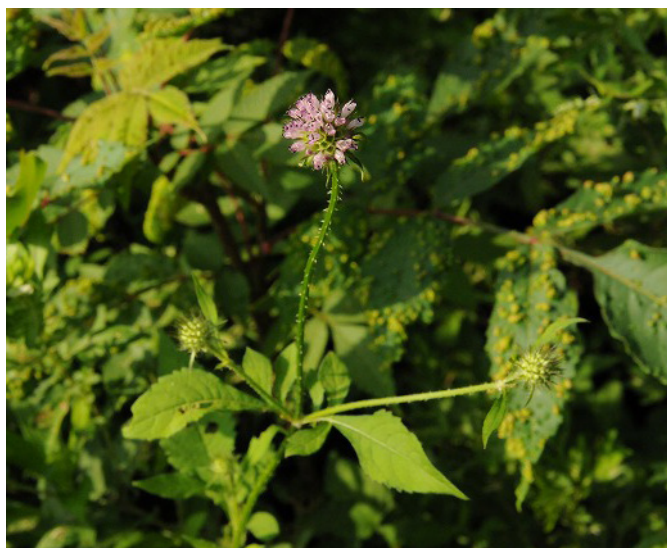
神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I B 類

国内分布：本州（関東地方以西）、四国、九州

生育環境：冷温帯の草地や落葉広葉樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：5箇所の生育地がある。写真の場所では
合計で 50～100 個体あった。



2011年9月7日

ナベナ スイカズラ科

Dipsacus japonicus Miq.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 II 類

国内分布：本州、四国、九州

生育環境：山地の草地や林縁

生活型：越年草

現状：2箇所の生育地がある。写真の場所では
4 個体が開花していた。道路法面下に生育して
いたため、緑化資材とともに外から持ち込ま
れた可能性もある。



2009年8月24日

アシタカマツムシソウ スイカズラ科

Scabiosa japonica Miq. var. *lasiophylla* Sugim.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I B 類

国内分布：北海道、本州、四国、九州

生育環境：暖温帯～冷温帯の草地や芝地

生活型：越年草

現状：県内に生育するマツムシソウ類は再整理
され、マツムシソウと本種が分布すること
となった。写真の場所ではアシタカマツムシソ
ウと推定されるものが約 30 個体あった。



2009年8月24日

ヤマノコギリソウ キク科

Achillea alpina L. var. *discoidea* (Regel) Kitam.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I A 類

国内分布：北海道、本州（中部以北）

生育環境：冷温帯の草原

生活型：夏緑の多年草

現状：1箇所の生育地がある。現地には約 20 個体があった。



2002年8月11日

タテヤマギク キク科

Aster dimorphophyllus Franch. et Sav.

神奈川 RDB カテゴリー：—

環境省 RL カテゴリー：絶滅危惧 II 類

国内分布：山梨県、静岡県、神奈川県

生育環境：冷温帯の樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：20箇所程度の生育地があり、個体数も多い。



2009年8月7日

メタカラコウ キク科

Ligularia stenocephala (Maxim.) Matsum. et Koidz.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I B 類

国内分布：本州、四国、九州

生育環境：冷温帯、稀に暖温帯の沢筋の樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：2箇所の生育地がある。



2008年9月5日

オオモミジガサ キク科

Miricacalia makinoana (Yatabe) Kitam.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I B 類

国内分布：本州（福島県以西）、四国、九州

生育環境：冷温帯の湿った樹林内や沢の急崖

生活型：夏緑の多年草

現状：丹沢山では柵内に 2 株、大室山では柵内に 8 株あった。他に沢の源頭の急斜面に数 10 株ある。大室山では少なくとも 1979 年まで植林下に生育していたことが城川 (1980a) により報告されている。



2009年10月4日

セイタカトウヒレン キク科

Saussurea tanakae Franch. et Sav. ex Maxim.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I A 類

国内分布：本州（関東地方～中部地方、岡山県）

生育環境：冷温帯の草地や林縁、明るい樹林内

生活型：夏緑の多年草

現状：2 箇所の生育地がある。写真の場所では 3 個体あった。



2010年8月27日

コウリンカ キク科

Tephrosieris flammea (Turcz. ex DC.) Holub
subsp. *glabrifolia* (Cufod.) B.Nord.

神奈川 RDB カテゴリー：絶滅危惧 I A 類

環境省 RL カテゴリー：絶滅危惧 II 類

国内分布：本州

生育環境：暖温帯上部～冷温帯の草原

生活型：夏緑の多年草

現状：1 箇所の生育地があり、50 ～ 100 個体あった。

丹沢の希少植物リスト

No.	科名	和名	国カテゴリー	県カテゴリー	掲載
1	ヒカゲノカズラ	スギラン	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	○
2	ミズニラ	ミズニラ	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠB類	
3	イワヒバ	エゾノヒメクラマゴケ		絶滅危惧Ⅱ類	○
4	イワヒバ	ヒモカズラ		絶滅	
5	マツバラシ	マツバラシ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	
6	ハナヤスリ	ヒメハナワラビ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅	
7	ハナヤスリ	ウスイハナワラビ		絶滅危惧Ⅱ類	○
8	ハナヤスリ	コヒロハハナヤスリ		準絶滅危惧	
9	ゼンマイ	ヤマドリゼンマイ		絶滅危惧ⅠB類	○
10	コケシノブ	ヒメコケシノブ		絶滅危惧Ⅱ類	○
11	コケシノブ	キヨスミコケシノブ		絶滅危惧ⅠB類	
12	コケシノブ	コケシノブ		準絶滅危惧	○
13	デンジソウ	デンジソウ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
14	サンショウモ	オオアカウキクサ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
15	サンショウモ	サンショウモ	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠA類	
16	キジノオシダ	オオキジノオ		絶滅危惧Ⅱ類	
17	キジノオシダ	キジノオシダ		準絶滅危惧	○
18	キジノオシダ	ヤマソテツ		絶滅	
19	イノモトソウ	タキミシダ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧ⅠA類	○
20	イノモトソウ	ミズワラビ		準絶滅危惧	
21	イノモトソウ	ヒメウラジロ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類	○
22	チャセンシダ	ヒメイワトラノオ		絶滅危惧Ⅱ類	○
23	チャセンシダ	チャセンシダ		絶滅危惧ⅠA類	○
24	チャセンシダ	イヌチャセンシダ		絶滅危惧ⅠB類	○
25	チャセンシダ	アオガネシダ		絶滅	
26	イワデンダ	ウスヒメワラビ		絶滅危惧ⅠA類	
27	イワデンダ	サトメシダ		絶滅危惧ⅠA類	
28	イワデンダ	コシノサトメシダ		絶滅危惧ⅠA類	
29	イワデンダ	タニイヌワラビ		絶滅危惧Ⅱ類	○
30	イワデンダ	タカネサトメシダ		絶滅危惧ⅠA類	○
31	イワデンダ	イッポンワラビ		絶滅危惧ⅠA類	○
32	イワデンダ	ムクゲシケシダ		絶滅危惧Ⅱ類	
33	イワデンダ	ウスゲミヤマシケシダ		県新産	○
34	イワデンダ	ミドリワラビ		絶滅危惧ⅠB類	
35	イワデンダ	ウスゲミヤマシケシダ×ハクモウイノデ			○
36	イワデンダ	ニセコクモウクジャク		絶滅危惧ⅠB類	○
37	イワデンダ	コクモウクジャク		丹沢新産	
38	ヒメシダ	タチヒメワラビ		絶滅	
39	ヒメシダ	メニッコウシダ		絶滅危惧ⅠB類	
40	ヒメシダ	アイハリガネワラビ			○
41	オシダ	シノブカグマ		絶滅危惧ⅠA類	
42	オシダ	ミドリカナワラビ		絶滅危惧Ⅱ類	○
43	オシダ	ヒロハヤブソテツ		絶滅危惧ⅠB類	
44	オシダ	ツクシヤブソテツ		情報不足	
45	オシダ	シラネワラビ		準絶滅危惧	
46	オシダ	キヨズミオオクジャク		絶滅危惧ⅠB類	
47	オシダ	ナガサキシダ		絶滅危惧ⅠB類	○
48	オシダ	ホソイノデ		絶滅危惧ⅠA類	○
49	オシダ	ヤシャイノデ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧ⅠA類	○
50	オシダ	オニイノデ	絶滅危惧Ⅱ類		○

No.	科名	和名	国カテゴリー	県カテゴリー	掲載
51	ウラボシ	ミヤマウラボシ		絶滅危惧ⅠA類	
52	ウラボシ	ホテイシダ		絶滅	
53	ウラボシ	ヒメサジラン		絶滅危惧ⅠB類	
54	ウラボシ	カラクサシダ		絶滅危惧Ⅱ類	○
55	ウラボシ	イワダレヒトツバ		絶滅	
56	ウラボシ	オオクボシダ			○
57	マツ	シラビソ			
58	マツ	ハリモミ		絶滅危惧Ⅱ類	○
59	マツ	ゴヨウマツ		絶滅危惧ⅠA類	○
60	マツ	コメツガ		絶滅危惧ⅠA類	○
61	ヒノキ	クロベ		絶滅	
62	ヒノキ	アスナロ			○
63	スイレン	コウホネ		絶滅危惧ⅠA類	
64	ウマノスズクサ	ズソウカンアオイ	準絶滅危惧		○
65	ウマノスズクサ	ウスバサイシン		絶滅危惧Ⅱ類	○
66	オモダカ	サジオモダカ		絶滅	
67	トチカガミ	ヤナギスプタ		絶滅危惧ⅠA類	
68	トチカガミ	ミカワスプタ		絶滅危惧ⅠA類	
69	トチカガミ	サガミトリゲモ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
70	トチカガミ	イトトリゲモ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	
71	トチカガミ	ホッスモ		絶滅危惧ⅠA類	
72	トチカガミ	ミズオオバコ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類	
73	トチカガミ	セキショウモ		絶滅危惧ⅠB類	
74	ヒルムシロ	イトモ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	
75	ヒルムシロ	センニンモ		絶滅危惧Ⅱ類	
76	ヒルムシロ	ホソバミズヒキモ		絶滅危惧ⅠB類	
77	ヒルムシロ	リュウノヒゲモ	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠB類	
78	ヒルムシロ	ササバモ		絶滅危惧Ⅱ類	
79	シュロソウ	クルマバツクバネソウ		絶滅危惧ⅠA類	○
80	ユリ	カタクリ		絶滅危惧ⅠB類	○
81	ユリ	キバナノアマナ		絶滅	
82	ユリ	クルマユリ		絶滅危惧ⅠA類	○
83	ユリ	ホソバノアマナ		絶滅危惧ⅠA類	
84	ユリ	サガミジョウロウホトトギス	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧ⅠB類	○
85	ユリ	アマナ		絶滅危惧Ⅱ類	
86	ラン	シラン	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠB類	
87	ラン	キソエビネ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧ⅠA類	
88	ラン	エビネ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	○
89	ラン	ナツエビネ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠA類	
90	ラン	ユウシュンラン	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類	
91	ラン	キンラン	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
92	ラン	サガミラン		絶滅危惧Ⅱ類	
93	ラン	コアツモリソウ	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠB類	○
94	ラン	クマガイソウ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類	○
95	ラン	アツモリソウ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅	
96	ラン	アオチドリ		絶滅危惧ⅠA類	
97	ラン	イチヨウラン		絶滅危惧ⅠA類	
98	ラン	セッコク		絶滅危惧ⅠB類	
99	ラン	ハコネラン	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	○
100	ラン	エゾスズラン		絶滅危惧ⅠA類	
101	ラン	カキラン		絶滅危惧ⅠB類	
102	ラン	マツラン	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠA類	
103	ラン	シロテンマ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧ⅠA類	
104	ラン	ベニシュスラン		絶滅危惧ⅠB類	○
105	ラン	ツリシュスラン		絶滅危惧ⅠB類	
106	ラン	ノビネチドリ		絶滅危惧ⅠA類	○
107	ラン	ミヤマモジズリ		絶滅危惧ⅠA類	
108	ラン	フジチドリ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅	
109	ラン	ダイサギソウ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅	
110	ラン	ムカゴソウ	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠA類	

No.	科名	和名	国カテゴリー	県カテゴリー	掲載
111	ラン	ヒメノヤガラ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類	
112	ラン	オオハクウンラン	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠA類	
113	ラン	ハクウンラン		絶滅危惧Ⅱ類	
114	ラン	フガクスズムシソウ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠA類	
115	ラン	セイタカスズムシソウ		絶滅危惧ⅠB類	
116	ラン	ジガバチソウ		絶滅危惧ⅠB類	
117	ラン	スズムシソウ		絶滅危惧ⅠB類	○
118	ラン	ヒメフタバラン		絶滅	
119	ラン	アオフタバラン		絶滅危惧Ⅱ類	○
120	ラン	ホザキイチヨウラン		絶滅危惧ⅠA類	
121	ラン	ヒメムヨウラン	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅	
122	ラン	タンザワサカネラン		新記載	○
123	ラン	サカネラン	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類	○
124	ラン	ヨウラクラン		絶滅危惧Ⅱ類	
125	ラン	オノエラン		絶滅危惧Ⅱ類	○
126	ラン	カモメラン	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠA類	○
127	ラン	コケイラン		絶滅危惧ⅠB類	○
128	ラン	ジンバイソウ		絶滅危惧Ⅱ類	
129	ラン	ミズチドリ		絶滅危惧ⅠB類	
130	ラン	オオバナオオヤマサギソウ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧ⅠA類	
131	ラン	ツレサギソウ		絶滅危惧ⅠA類	
132	ラン	キソチドリ		絶滅	
133	ラン	ナガバノキソチドリ		絶滅危惧ⅠB類	
134	ラン	オオヤマサギソウ		絶滅危惧Ⅱ類	○
135	ラン	ヤマトキソウ		絶滅危惧ⅠB類	
136	ラン	ヒナチドリ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠA類	
137	ラン	ウチョウラン	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠA類	○
138	ラン	カヤラン		絶滅危惧Ⅱ類	○
139	ラン	クモラン		絶滅危惧ⅠA類	
140	ラン	ヒトツボクロ		絶滅危惧Ⅱ類	○
141	ラン	イイヌママカゴ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅	
142	ラン	キバナノショウキラン	絶滅危惧ⅠB類		○
143	アヤメ	ノハナショウブ		絶滅危惧ⅠB類	
144	アヤメ	ヒメシャガ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	
145	ヒガンバナ	オオキツネノカミソリ		絶滅危惧ⅠA類	
146	ネギ	ヒメニラ		絶滅危惧ⅠB類	
147	キジカクシ	キジカクシ		絶滅危惧ⅠB類	○
148	キジカクシ	ハルナユキザサ		絶滅危惧ⅠB類	○
149	ミクリ	ミクリ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	
150	ミクリ	ナガエミクリ	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠB類	
151	ホシクサ	イトイヌノヒゲ		絶滅危惧ⅠB類	
152	カヤツリグサ	マツバスゲ		絶滅危惧ⅠB類	
153	カヤツリグサ	アワボスゲ		絶滅危惧Ⅱ類	
154	カヤツリグサ	ミヤマジュズスゲ		絶滅危惧ⅠA類	
155	カヤツリグサ	シロガヤツリ		絶滅危惧ⅠB類	
156	カヤツリグサ	ミズハナビ		絶滅危惧ⅠA類	
157	カヤツリグサ	コアゼテンツキ		絶滅危惧ⅠA類	
158	カヤツリグサ	タイワンヤマイ		絶滅危惧ⅠA類	
159	イネ	コミヤマヌカボ		準絶滅危惧	
160	イネ	タカネコウボウ		絶滅危惧ⅠA類	
161	イネ	ハイチゴザサ		絶滅危惧Ⅱ類	
162	イネ	コメガヤ		絶滅危惧ⅠA類	
163	イネ	ミチシバ		絶滅危惧ⅠB類	
164	イネ	キダチノネズミガヤ		絶滅危惧ⅠB類	
165	イネ	ケネザサ		絶滅危惧ⅠB類	
166	イネ	マキヤマザサ		準絶滅危惧	
167	イネ	ミヤギザサ		準絶滅危惧	
168	イネ	ヒロハノハネガヤ		絶滅危惧ⅠA類	
169	イネ	ルイヨウボタン		絶滅	○
170	キンボウゲ	ルイヨウショウマ		絶滅危惧ⅠB類	

No.	科名	和名	国カテゴリー	県カテゴリー	掲載
171	キンボウゲ	フクジュソウ		絶滅危惧Ⅱ類	
172	キンボウゲ	アズマイチゲ		準絶滅危惧	
173	キンボウゲ	レンゲショウマ		絶滅危惧ⅠB類	○
174	キンボウゲ	カザグルマ	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠB類	
175	キンボウゲ	オキナグサ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠA類	
176	キンボウゲ	バイカモ		絶滅危惧ⅠA類	
177	キンボウゲ	イワカラマツ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠA類	
178	キンボウゲ	モミジカラマツ		絶滅危惧ⅠB類	○
179	ケシ	ヤマブキソウ		絶滅危惧Ⅱ類	○
180	タデ	クリンユキフデ		絶滅	
181	タデ	オオツルイタドリ		絶滅危惧ⅠA類	
182	タデ	マダイオウ		絶滅	
183	ヒユ	ヤナギイノコヅチ		準絶滅危惧	
184	ヒユ	カワラアカザ		絶滅危惧ⅠA類	
185	ヤドリギ	マツグミ		絶滅危惧ⅠB類	
186	ツチトリモチ	ミヤマツチトリモチ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類	○
187	ポタン	ヤマシャクヤク	準絶滅危惧		○
188	ポタン	ベニバナヤマシャクヤク	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠA類	○
189	スグリ	ヤシャビシャク	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	○
190	スグリ	ヤブサンザシ		絶滅危惧ⅠA類	○
191	スグリ	ザリコミ		絶滅危惧ⅠB類	○
192	ユキノシタ	トリアシショウマ		絶滅危惧ⅠA類	
193	ユキノシタ	コガネネコノメソウ		絶滅危惧Ⅱ類	
194	ユキノシタ	イワユキノシタ		絶滅危惧ⅠA類	
195	ベンケイソウ	アオベンケイ		絶滅危惧ⅠA類	○
196	ベンケイソウ	ツメレンゲ	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠA類	
197	ベンケイソウ	ホソバナキリンソウ		絶滅	
198	ベンケイソウ	マツノハマンネングサ	絶滅危惧Ⅱ類		○
199	フウロソウ	タチフウロ		絶滅危惧ⅠB類	
200	ミソハギ	ミズマツバ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
201	アカバナ	ヒメアカバナ		絶滅危惧ⅠB類	
202	アカバナ	トダイアカバナ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠA類	
203	ニシキギ	ウメバチソウ		絶滅危惧ⅠB類	○
204	ヤナギ	ミヤマヤナギ		絶滅危惧ⅠB類	
205	スマレ	エゾノタチツボスミレ		絶滅危惧ⅠA類	○
206	スマレ	サクラスマレ		絶滅危惧ⅠB類	
207	トウダイグサ	ノウルシ	準絶滅危惧	絶滅	
208	アマ	マツバニンジン	絶滅危惧ⅠA類	絶滅	
209	カタバミ	コミヤマカタバミ		絶滅危惧ⅠB類	
210	マメ	ユクノキ		絶滅	
211	マメ	イタチササゲ		絶滅危惧ⅠB類	
212	マメ	レンリソウ		絶滅危惧ⅠB類	
213	マメ	イヌハギ	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠB類	
214	マメ	ヨツバハギ		絶滅危惧ⅠA類	
215	ヒメハギ	ヒナノキンチャク	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧ⅠA類	
216	バラ	ザイフリボク		絶滅危惧ⅠA類	○
217	バラ	ヤブザクラ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類	
218	バラ	シウリザクラ		絶滅危惧ⅠB類	○
219	バラ	ヒロハノカワラサイコ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類	
220	バラ	ツルキジムシロ		絶滅危惧ⅠB類	○
221	バラ	サンショウバラ	絶滅危惧Ⅱ類		○
222	バラ	サナギイチゴ		絶滅危惧ⅠA類	○
223	バラ	アイズシモツケ			○
224	グミ	ハコネグミ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	○
225	クロウメモドキ	ミヤマクマヤナギ		絶滅	
226	クロウメモドキ	ヨコグラノキ		絶滅危惧ⅠB類	○
227	カバノキ	タニガワハンノキ		絶滅危惧ⅠB類	
228	カバノキ	ヤハズハンノキ		絶滅	
229	アブラナ	ミヤマハタザオ		絶滅危惧ⅠB類	
230	ムクロジ	ヒトツバカエデ		絶滅危惧ⅠB類	○

No.	科名	和名	国カテゴリー	県カテゴリー	掲載
231	ムクロジ	テツカエデ		絶滅危惧ⅠA類	○
232	アジサイ	ウメウツギ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	○
233	ツバキ	ナツツバキ		絶滅危惧ⅠB類	○
234	サクラソウ	コイワザクラ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	○
235	ツツジ	ムラサキツリガネツツジ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類	○
236	ツツジ	シャクジョウソウ		絶滅危惧ⅠA類	○
237	ツツジ	サツキ		絶滅危惧ⅠB類	○
238	ツツジ	ヒカゲツツジ		絶滅危惧ⅠB類	○
239	ツツジ	レンゲツツジ		絶滅	
240	ツツジ	ハコネコメツツジ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	○
241	ツツジ	ナツハゼ		絶滅危惧Ⅱ類	
242	ムラサキ	サワルリソウ		絶滅危惧Ⅱ類	○
243	ムラサキ	ムラサキ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧ⅠA類	
244	ムラサキ	ルリソウ		絶滅危惧ⅠA類	
245	ムラサキ	ミズタビラコ		絶滅危惧ⅠB類	
246	アカネ	オオバノヨツバムグラ		絶滅	
247	アカネ	ヤブムグラ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
248	アカネ	ホソバノヨツバムグラ		絶滅危惧Ⅱ類	
249	アカネ	イナモリソウ		絶滅危惧ⅠB類	○
250	アカネ	オオキヌタソウ		絶滅危惧ⅠA類	○
251	リンドウ	ホソバノツルリンドウ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類	○
252	リンドウ	ムラサキセンブリ	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠA類	
253	キョウチクトウ	フナバラソウ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠA類	
254	ガガイモ	ツルガシワ		絶滅危惧ⅠA類	
255	ガガイモ	スズサイコ	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠB類	
256	キョウチクトウ	コカモメヅル		消息不明種	○
257	ナス	ヤマホオズキ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類	
258	ナス	アオホオズキ	絶滅危惧Ⅱ類		○
259	モクセイ	ミヤマアオダモ		絶滅危惧ⅠA類	○
260	ゴマノハグサ	ゴマノハグサ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠA類	
261	シソ	ミヤマトウバナ		情報不足	
262	シソ	キセワタ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類	○
263	シソ	ヤマジソ	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠA類	
264	シソ	トウゴクシソバタツナミ			○
265	ハマウツボ	ママコナ		絶滅	
266	オオバコ	イヌノフグリ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類	
267	オオバコ	ヒメトラノオ		絶滅危惧Ⅱ類	
268	オオバコ	クガイソウ		絶滅危惧ⅠA類	○
269	タヌキモ	イヌタヌキモ	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠA類	
270	ウコギ	タカノツメ		絶滅	
271	セリ	アマニュウ		絶滅危惧ⅠA類	○
272	セリ	ハナビゼリ		絶滅危惧ⅠA類	
273	セリ	ホタルサイコ		絶滅危惧ⅠA類	
274	セリ	ミシマサイコ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠA類	
275	セリ	ヒカゲミツバ		絶滅危惧ⅠB類	○
276	セリ	イブキボウフウ		絶滅危惧ⅠB類	
277	セリ	サワゼリ		絶滅	
278	レンブクソウ	ミヤマシグレ		絶滅危惧ⅠA類	
279	スイカズラ	ナベナ		絶滅危惧Ⅱ類	○
280	スイカズラ	ニッコウヒョウタンボク		絶滅	
281	スイカズラ	マツムシソウ		絶滅危惧ⅠB類	
282	スイカズラ	アシタカマツムシソウ		絶滅危惧ⅠB類	○
283	キキョウ	フクシマシャジン		絶滅危惧ⅠA類	
284	キキョウ	サワギキョウ		絶滅危惧ⅠB類	
285	ミツガシワ	ミツガシワ		絶滅	
286	キク	ヤマノコギリソウ		絶滅危惧ⅠA類	○
287	キク	ノコギリソウ		絶滅危惧ⅠB類	
288	キク	テイショウソウ		絶滅	
289	キク	クサヤツデ		絶滅	
290	キク	タテヤマギク	絶滅危惧Ⅱ類		○

No.	科名	和名	国カテゴリー	県カテゴリー	掲載
291	キク	ヒメシオン		絶滅危惧ⅠA類	
292	キク	カワラノギク	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧ⅠA類	
293	キク	オオガンクビソウ		絶滅危惧ⅠA類	
294	キク	アズマギク		絶滅	
295	キク	アキノハハコグサ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠA類	
296	キク	ヤナギタンポポ		絶滅危惧ⅠA類	
297	キク	タカサゴソウ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠA類	
298	キク	カワラニガナ	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠB類	
299	キク	メタカラコウ		絶滅危惧ⅠB類	○
300	キク	オオモミジガサ		絶滅危惧ⅠB類	○
301	キク	カニコウモリ		絶滅危惧ⅠA類	
302	キク	ミヤコアザミ		絶滅危惧Ⅱ類	
303	キク	ヒメヒゴタイ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠA類	
304	キク	セイタカトウヒレン		絶滅危惧ⅠA類	○
305	キク	キクアザミ		絶滅危惧ⅠB類	
306	キク	コウリンカ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠA類	○

上記のリストを整理すると丹沢の希少植物のカテゴリー別種数は以下のようになります。

絶滅	36種
絶滅危惧ⅠA類	95種
絶滅危惧ⅠB類	89種
絶滅危惧Ⅱ類	55種
準絶滅危惧	10種
消息不明種	1種
情報不足	2種
県新産	1種
丹沢新産	1種
新記載	1種
県カテゴリーなし	15種

参考文献

- 林 彌栄・小林義雄・小山芳太郎・大河原利江 (1961) 丹沢山塊の植物調査報告. 林業試験場
研究報告 133: 1-128+16pl
- 神奈川県レッドデータ生物調査団 (1995) 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 1995. 神奈川
県立生命の星・地球博物館
- 神奈川県立生命の星・地球博物館編 (1996) 追われる生きものたちー神奈川県レッドデータ
調査が語るものー. 130pp, 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 神奈川県植物誌調査会編 (2001) 神奈川県植物誌 2001. 1584pp, 神奈川県立生命の星・地球
博物館
- 勝山輝男・高橋秀男・城川四郎・秋山 守・田中徳久 (1997a) 植物相とその特色. (丹沢大山
自然環境総合調査報告書. (財) 神奈川県公園協会・丹沢大山自然環境総合調査団企画委員会編,
神奈川県環境部). 543-558
- 勝山輝男・高橋秀男・城川四郎・秋山 守・田中徳久 (1997b) 丹沢山地の種子植物・シダ植物.
(丹沢大山自然環境総合調査報告書丹沢山地動植物目録. (財) 神奈川県公園協会・丹沢大山
自然環境総合調査団企画委員会編, 神奈川県環境部). 331-382
- 勝山輝男・田村 淳・田中徳久 (2007a) 丹沢の維管束植物相. (丹沢大山総合調査学術報告書.
丹沢大山総合調査団編, (財) 平岡環境科学研究所). 89-94
- 勝山輝男・田村 淳・田中徳久 (2007b) 維管束植物. (丹沢大山総合調査学術報告書丹沢大山
動植物目録. 丹沢大山総合調査団編, (財) 平岡環境科学研究所). 1-44
- 大場秀章編 (2009) 植物分類表. アボック社
- 高橋秀男 (1971) フォッサ・マグナ要素の植物. 神奈川県立博物館調査報告自然科学 2: 1-63 +
172fig.
- 高桑正敏・勝山輝男・木場英久 (編) (2006) 神奈川県レッドデータ生物調査報告書. 神奈川
県立生命の星・地球博物館

和名索引

和名	頁	和名	頁
アイズシモツケ	33 上	サンショウバラ	32 中
アイハリガネワラビ	14 上	シウリザクラ	31 下
アオフタバラン	22 中	シャクジョウソウ	36 上
アオベンケイ	30 上	スギラン	8 上
アオホオズキ	39 上	スズムシソウ	22 上
アシタカマツムシソウ	41 下	ズソウカンアオイ	18 上
アスナロ	17 下	セイタカトウヒレン	43 中
アマニューウ	40 下	タカネサトメシダ	12 中
イッポンワラビ	12 下	タキミシダ	10 中
イナモリソウ	37 下	タテヤマギク	42 中
イヌチャセンシダ	11 下	タニイヌワラビ	12 上
ウスイハナワラビ	8 下	タンザワサカネラン	22 下
ウスゲミヤマシケシダ	13 上	チャセンシダ	11 中
ウスゲミヤマシケシダ×ハクモウイノデ	13 中	ツルキジムシロ	32 上
ウスバサイシン	18 中	テツカエデ	34 中
ウチョウラン	24 下	トウゴクシソバタツナミ	40 上
ウメウツギ	34 下	ナガサキシダ	14 下
ウメバチソウ	30 下	ナツツバキ	35 上
エゾノタチツボスミレ	31 上	ナベナ	41 中
エゾノヒメクラマゴケ	8 中	ニセコクモウクジャク	13 下
エビネ	20 上	ノビネチドリ	21 下
オオキヌタソウ	38 上	ハコネグミ	33 中
オオクボシダ	16 中	ハコネコメツツジ	37 上
オオモミジガサ	43 上	ハコネラン	21 上
オオヤマサギソウ	24 中	ハリモミ	16 下
オニイノデ	15 下	ハルナユキザサ	26 中
オノエラン	23 中	ヒカゲツツジ	36 下
カタクリ	19 上	ヒカゲミツバ	41 上
カモメラン	23 下	ヒトツバカエデ	34 上
カヤラン	25 上	ヒトツボクロ	25 中
カラクサシダ	16 上	ヒメイワトラノオ	11 上
キジカクシ	26 上	ヒメウラジロ	10 下
キジノオシダ	10 上	ヒメコケシノブ	9 中
キセワタ	39 下	ベニシュスラン	21 中
キバナノショウキラン	25 下	ベニバナヤマシャクヤク	28 下
クガイソウ	40 中	ホソイノデ	15 上
クマガイソウ	20 下	ホソバノツルリンドウ	38 中
クルマバツクバネソウ	18 下	マツノハマンネンダサ	30 中
クルマユリ	19 中	ミドリカナワラビ	14 中
コアツモリソウ	20 中	ミヤマアオダモ	39 中
コイワザクラ	35 中	ミヤマツチトリモチ	28 上
コウリンカ	43 下	ムラサキツリガネツツジ	35 下
コカモメヅル	38 下	メタカラコウ	42 下
コケイラン	24 上	モミジカラマツ	27 中
コケシノブ	9 下	ヤシャイノデ	15 中
コメツガ	17 中	ヤシャビシャク	29 上
ゴヨウマツ	17 上	ヤブサンザシ	29 中
ザイフリボク	31 中	ヤマシャクヤク	28 中
サカネラン	23 上	ヤマドリゼンマイ	9 上
サガミジョウロウホトトギス	19 下	ヤマノコギリソウ	42 上
サツキ	36 中	ヤマブキソウ	27 下
サナギイチゴ	32 下	ヨコグラノキ	33 下
ザリコミ	29 下	ルイヨウボタン	26 下
サワリソウ	37 中	レンゲショウマ	27 上

作成・編集

神奈川県自然環境保全センター研究連携課

編集協力

支倉千賀子（アトリエ・コナン）

長澤展子（公益財団法人神奈川県公園協会）

写真提供者

羽生田麻衣（コケイラン）

入野彰夫（クマガイソウ）

田村 淳

撮影協力者

金井和子

勝山輝男（神奈川県立生命の星・地球博物館）

中山博子

大谷房江

酒井明子

遺伝的変異の解析でお世話になった方（敬称略）

藤井紀行（熊本大学 元首都大学東京） ハルナユキザサ

村上哲明（首都大学東京） ヤシヤイノデ，ハルナユキザサ

大槻 涼（首都大学東京） ヤシヤイノデ

瀬尾明弘（京都大学） ハルナユキザサ

瀬戸口浩明（京都大学） サガミジョウロウホトトギス

掲載写真はすべて当センター職員が撮影したものです。許可なく転載することを禁じます。

丹沢の希少植物図鑑—希少植物の保護に向けて—

2012年3月発行

発行 神奈川県自然環境保全センター



神奈川県

自然環境保全センター
〒243-0121 厚木市七沢 657